

第111図 平成5年度出土遺物実測図

## 平成6 (1994) 年度

現地調査期間······平成6年10月3日~12月9日 調査箇所······松江市上本庄町原後1539-2番地外

平成6年度においては、7 工区、8 工区についてトレンチ( $10 \times 2$  m)40 箇所を設定し、遺跡の有無の確認調査を実施した。

#### 7 工区

7工区については水田部分にトレンチ(10×2m)17本を設定し、調査を実施した。調査の結果、 土層の堆積状況としていずれのトレンチにおいても表土は水田の耕作土で、その下層(第2・第3) は茶褐色及び黄褐色~灰褐色の粘質土であり、最下層は転石(河原石)を含む自然堆積物の砂層や礫 層によって形成されており、本庄川の流入があったものと考えられる。

T-6については排水施設と思われる箇所を検出したが、生木(竹・枝)を組み合わせたものであり近年の排水施設と推定される。T-14については水田面下約30~60cmにおいて黒色粘質土層が検出しているが、この下層より礫層が、また南側同レベルにおいて暗茶褐色砂質土(礫混入)をそれぞれ検出していることからこの黒色粘質土層は旧耕作土で南側の砂質土層は近年の土地改良によるものと思われる。これらの土層においては遺物は出土しなかった。

T-16については水田面下約30cmにおいて明灰色 粘質土における杭跡が検出されたが、トレンチ内に おいて1箇所しか検出されず、遺物も出土していな いことからこの杭跡が近年のものと考えられる。

遺物については、ほとんどが摩滅し、本庄川上流からの流れ込みによるものだと思われる。T-8・13・15については耕作土より須恵器、土師器の細片がそれぞれ出土した。

 $T-1\sim7\cdot9\sim12\cdot14$ については耕作土及び砂礫層から須恵器、土師器、古式土師器の細片がそれぞれ出土している。

T-9については水田面下約20cmの青灰色砂質土層(礫混入)より小型短頸壺が底部を上に向けて出土した。

T-16・17については遺物は出土しなかった。



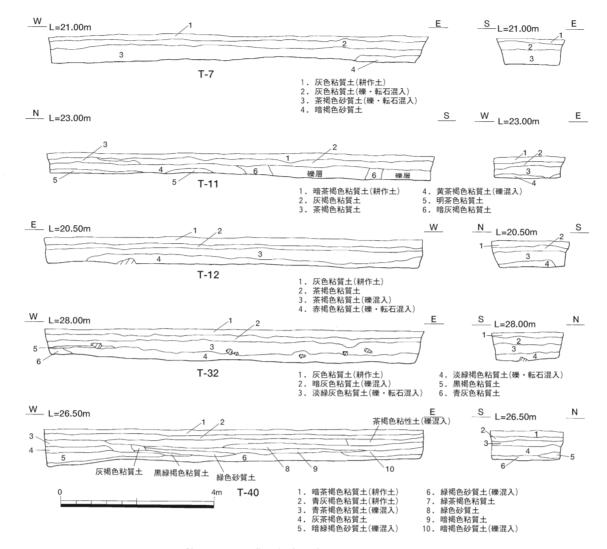
T-7完掘状況



T-11完掘状況



T-12完掘状況



第112図 平成6年度調査トレンチ土層断面図

#### 8工区

8工区については水田部分にトレンチ( $10\times2$  m)23本を設定し、調査を実施した。調査の結果、土層の堆積状況としていずれのトレンチにおいても表土は水田の耕作土で、その下層(第 $2\cdot3$  層)はほぼ茶褐色及び暗褐色~灰褐色の粘質土(T-27を除く)であり最下層は転石(河原石)を含む自然堆積物の砂層や礫層によって形成されており、本庄川の流入があったものと考えられる。同時にトレンチの所々で近年の土地改良の痕跡が垣間見られ

る。

T-32については第3層より黒褐色粘質土による一 見溝状遺構らしきものが検出したが割合に浅く、遺物 も出土していないため遺構であるかは判断しがたい。

T-37については水田面下約30cmより暗褐色粘質土における杭跡が検出されたが、T-16同様近年のものと思われる。



T-32完掘状況

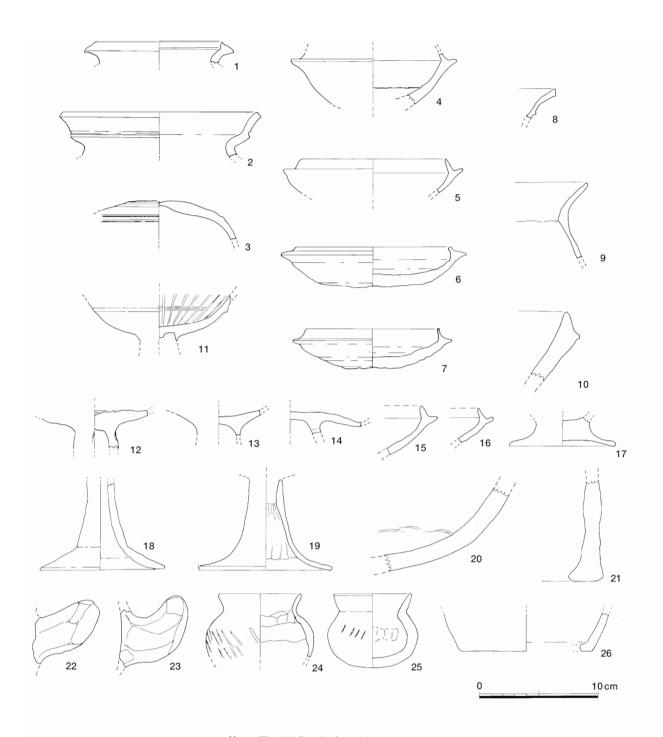
遺物についてはほとんどが摩滅し、本庄川上流からの流れ込みによるものと思われる。 $T-18\cdot 22\cdot 32\cdot 35\cdot 39$ については耕作土より須恵器、土師器、白磁器の細片がそれぞれ出土している。 $T-23\cdot 33\cdot 34$ については粘質土から須恵器、土師器の細片がそれぞれ出土している。 $T-25\cdot 27\sim 29\cdot 36\cdot 40$ については耕作土及び砂礫層から須恵器、土師器、古式土師器の細片がそれぞれ出土している。



T-40完掘状況

T-40については水田面下約30cmの青茶褐色粘質土(礫混入)より土師器の高坏脚部2、口縁部1が出土している。

 $T-19\sim21\cdot24\cdot26\cdot30\cdot31\cdot37\cdot38$ について遺物は出土しなかった。



第113図 平成6年度出土遺物実測図

## 平成7 (1995) 年度

現地調査期間……平成7年4月27日~5月31日

調査箇所……松江市上本庄町1523 - 1番地外

平成7年度8工区の発掘調査を行うため、基本的に扇状地の等高線に垂直になるように下記の通りのトレンチを設定し、調査を行った。

T-1 ( $40 \times 2$  mのトレンチで、北から南へ6 m、8 m、8 m、8 m、6 mに区画し、①区~⑤区とする。)

T-2  $(14 \times 2 m の トレンチで、北から南へ8 m、6 m に区画し、①~②区とする。)$ 

T-3  $(24 \times 2 mのトレンチで、北から南へ8 m、8 mに区画し、①区~③区とする。)$ 

調査の結果、土層の堆積状況はいずれのトレンチにおいても表土は水田の耕作土であった。その下

層には、同質であるが酸化鉄の脱漏によって脱色され灰色系を呈する粘質土層が存在している。この第2層までは既に人為的撹乱を受けており、さらにT-12においては、黄褐色系粘質土層に至るまで大規模な人為的撹乱があったと推定される。なお、撹乱層の下は、全てのトレンチにおいて土石流に起因するものと推定される砂質土または礫が堆積していた。

T-1①~④、T-3①は、遺物包含層が第2層 までの耕作土層及び同質の灰色系粘質土層に限ら れ、土師器から近世に至るまでの土師質土器や須恵 器、陶磁器が混在しており、遺構も検出されなかっ た。

T-1⑤、T-3②・③においても、第2層までから他調査地区同様、他時期に至る遺物が出土したが、本調査区については第3層以下からも遺物を検出した。

T-1 ⑤は第 3 層から土師器細片 6 片が出土したが、人為的な撹乱を受けており、遺物は検出されなかった。

T-2①からは表土下から中世陶器片 1 片が出土したが、T-2②からは遺構・遺物は検出されなかった。

T-3②からは、第3層から平瓶と推定される須恵器片が1片、甕と推定される須恵器片2片が出土



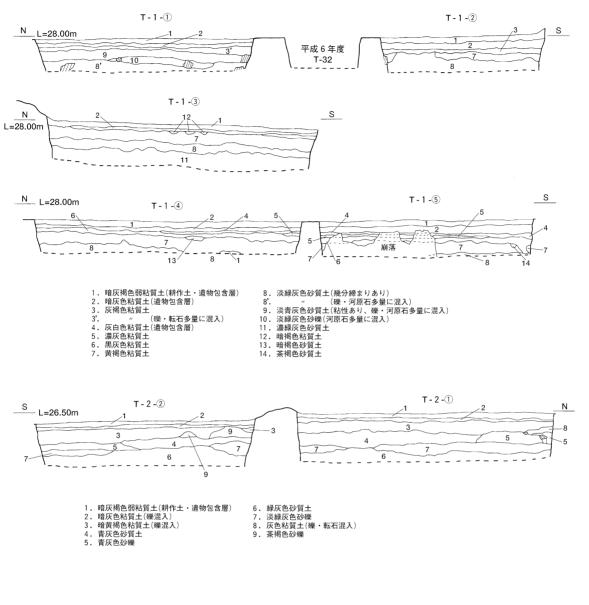
T-1完掘状況

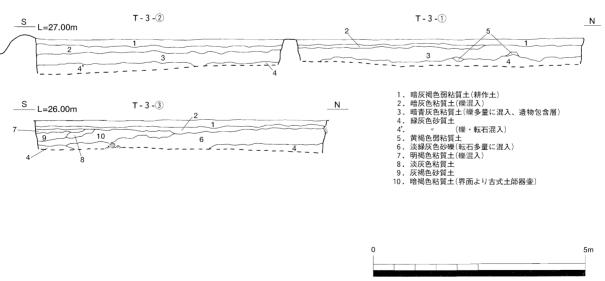


T-2完掘状況

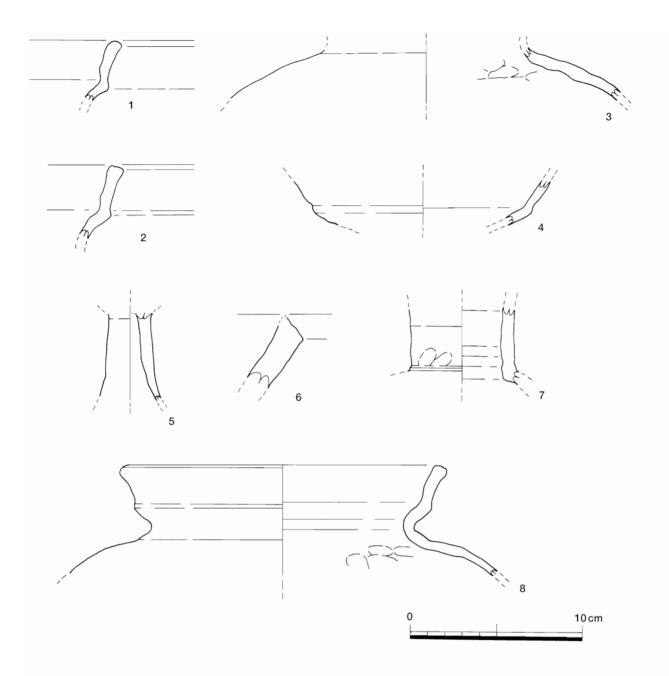


T-3完掘状況





第114図 平成7年度調査トレンチ土層断面図



第115図 平成7年度出土遺物実測図

した。礫層からの出土であること、甕片の摩滅が著しいことなどからすると、旧河川による遺物流入であると考えられる。遺構は検出されなかった。

T-3③からは、土層面に流路の断面が検出され、河川堆積と推定される灰褐色砂質土と暗褐色粘質土の界面から土師器甕片が出土した。流路跡の規模は不明であるが、現本庄川の氾濫を想定した場合、影響を受けやすい区域であることを考えると遺物流入の可能性が高い。遺構は検出されなかった。

## 平成 8 (1996) 年度

#### 前期調查

現地調査期間……平成8年4月22日~7月18日

調查箇所……松江市上本庄町1511番地外

平成6年度調査で遺物が多量に検出された3地点について、2×40mのトレンチを設定し、東から順に第1、第2、第3調査区とし、遺物や遺構の検出に応じて拡張する形で調査を行った。第1調査区では溝状遺構2、掘立柱建物跡1、小竪穴状遺構跡1、ピット数穴が検出され、古墳時代を中心とした多量の遺物が出土した。第2調査区では遺構はなかったが、古墳時代を中心とする弥生から中世までの土器類が多量に出土した。第3調査区では弥生~古墳時代の竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡2棟、ピット多数が検出され、弥生~古墳時代の遺物が多く出土した。

#### 第1調査区

## 土層について

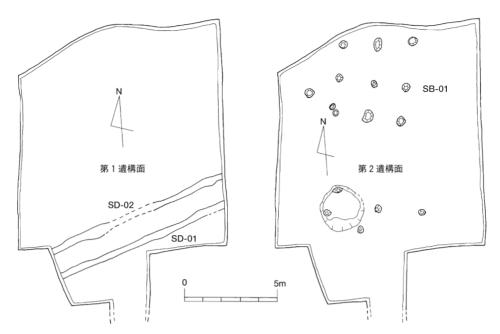
- 第1層 水田耕作土
- 第2層 淡灰色粘質土
- 第3層 黄茶色粘質土 (小~中礫を多量に含む) 遺物多量
- 第4層 暗灰色粘質土 (礫をほとんど含まない、炭を点々と含む) 遺物多量
- 第5層 灰褐色粘質土 (20~70cm大の礫、転石を多量に含む) 土石流によるもので調査区内の北から東にかけて広がる。遺物多量
- 第6層 灰青色粘質土 第5層の東部直下にのみ見られる。遺物少量
- 第7層 淡黄緑色粘質土 (小~中礫を多量に含む) 第6層の下で確認、遺物なし
- 第8層 淡橙色~淡黄緑色粘質土 遺物なし 第7層と第8層の上下関係については確認できていない。

#### 遺構について

第3層上面で第1遺構面、第8層上面で第2遺構面を検出した。第1遺構面にはSD-01、SD-02があり、第2遺構面はSB-01とピット、小竪穴状遺構が存在した。



7 工区調査前全景



第116図 第1調査区平面図



SD一01検出状況



SD-01の石列と土石流

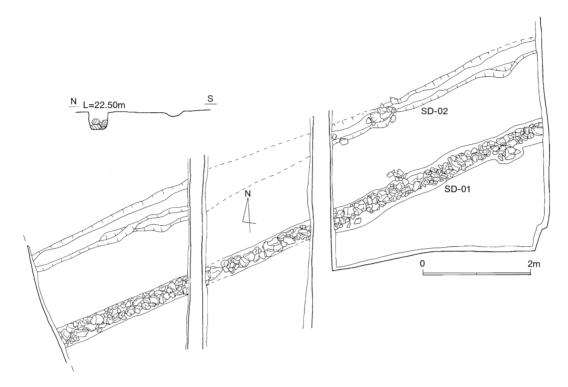
## 溝状遺構 1 (SD−01)

上端幅35cm、下端幅25cm、深さ30~35cmを 測る断面逆台形状を呈し、約3分の2の深さ まで5~30cm大の礫が充填されていた。礫の 上には板状のものをかぶせて埋め戻した痕跡 が見られた。検出長は約10mであるが、東西 方向にさらに伸びるものと思われる。溝底面 のレベルは東西で15cm程の高低差があり、東 が低くなっている。以上のことから用途とし ては暗渠状のものと考えられるが、類例を知 らず決め手に欠ける。

また出土遺物がなく時期がよく分からないが、中世の土師質土器や古墳時代後期の遺物を含む土層に堀り込まれていることから、中世又は近世の遺構と考えられる。

# 溝状遺構 2 (SD−02)

SD-01に平行して走る浅い溝である。上端幅35~70cm、下端幅15~25cm、深さ $6\sim10$ cmを測り、断面は浅いU字状を呈している。



第117図 SD-01・02実測図

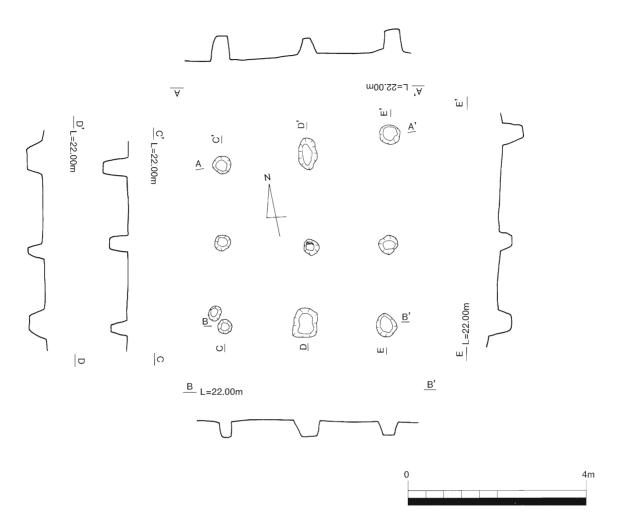
検出長は約10mであるが、SD-01と同じくさらに東西に伸びるものと思われる。東西の溝底面のレベル差は約10cmあり、やはり東が低くなっている。出土遺物はなかった。検出した層面からするとSD-01と同時期に存在したものと思われる。



SD一01検出状況

# 掘立柱建物跡 (SB-01)

東西2間×南北2間の建物跡である。中央のピットをこの建物に関連したものとすると総柱の建物となり、さらに北へ伸びる可能性が出てくる。柱間距離は西側1.6+1.8m、南側1.8m等間、東側1.8+2.4m、北側1.9m等間を測る。ピット中の遺物は須恵器や土師器の細片であり時期がはっきりしないが、この遺構面を覆った第4~5層の遺物は古墳時代前期~後期に限定され、しかも完形のものや完形に近い状態に復元できるものが多数あるので、この建物は古墳時代後期の土石流により廃絶したものであろう。土石流は石の重なり具合からすると北西から南東の方向へ流れたと考えられる。



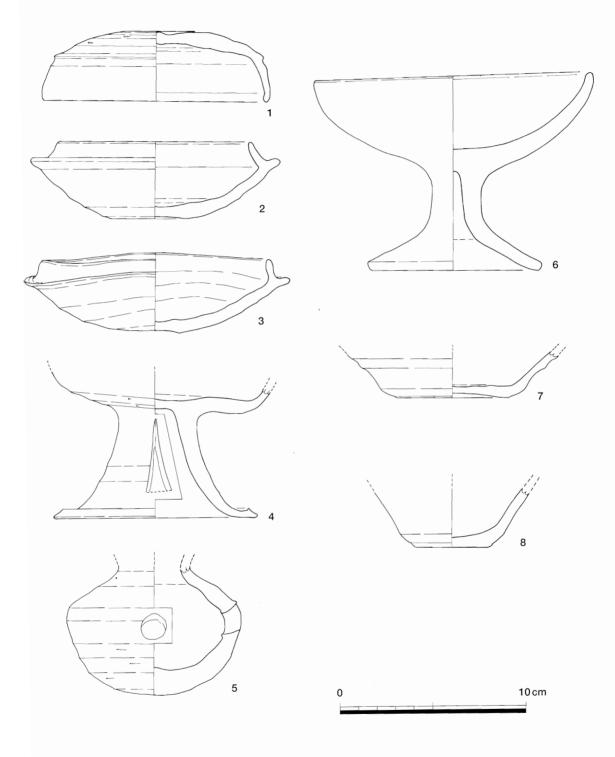
第118図 SB-01実測図



小竪穴状遺構検出状況

# 小竪穴状遺構

東西2.2×2.4mの落ち込みの底にピットが2穴発見された。落ち込みはやや不整な円形を呈し、深さは中央部で約30cmある。ピットは西北部分の下端に沿ってあり、直径30cm、深さ40~50cmを測る。落込み内の堆積土から古墳時代前期の土師器片が出土している。



第119図 第1調査区出土遺物実測図



第1調査区遺物出土状況

## 遺物について

第2層の遺物 近世の摺鉢片、土錘、不明

鉄器、須恵器片、土師器片

土師質土器片、須恵器片、 第3層の遺物

土師器片

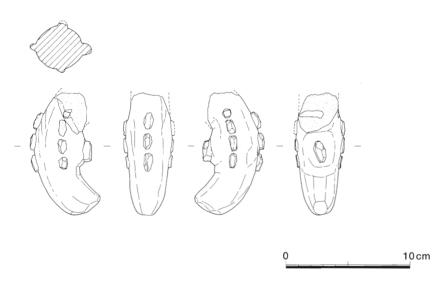
第4~5層の遺物 古墳時代中~後期の須恵器

(坏蓋、坏身、高坏提瓶、甕 等)、土師器(高坏、椀、 甕、甑、竈等) 古墳時代前

期の土師器(甕、低脚坏等)

第6層の遺物

須恵器・土師器小片



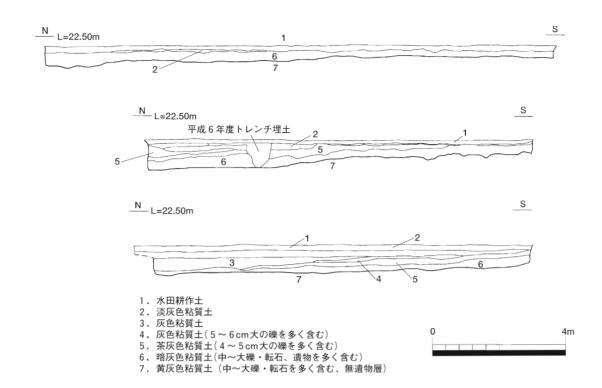
第120回 第1調查区出土子持勾玉実測図

# 子持勾玉について

第1調査区北4m地点で 出土した子持勾玉は、本体 部は残存長10cm、最大幅4 cm、厚さ3.7cm。 胴部断面 は円形で、頭部は欠損、尾 部は僅かに平坦面をなす。 穿孔は1箇所円形に穿って いる。胴体の腹部に1個、 背部に3個、側面に3個ず つの突起を有する。色調は 淡褐色に暗青灰色の不整な しま模様である。石材は滑 石と考えられる。

## 第2調査区

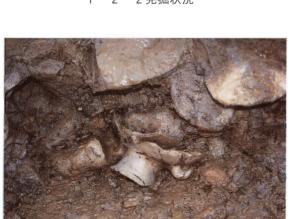
水田の坪ごとに北からT-2-1区、T-2-2区、T-2-3区として調査した。土層の堆積状 況については第1層水田耕作土、第2層淡灰色粘質土、第3層灰色粘質土・遺物少量、第4層灰色粘 質土(5~6cm大の礫を多く含む)・遺物少量、第5層茶灰色粘質土(4~5cm大の礫を少量含む)・ 遺物少量、第6層暗灰色粘質土(中~大礫・転石を多く含む)・遺物多量、第7層黄灰色粘質土(中~ 大礫・転石を多く含む)・遺物なしである。T-2-1区では第2層の下に第6層があり、T-2-12区では第2層の下には第5層が堆積していた。第3と第4層はT-2-3区にだけ見られた。



第121図 第2調査区土層断面図



T-2-2完掘状況



T-2-2遺物出土状況

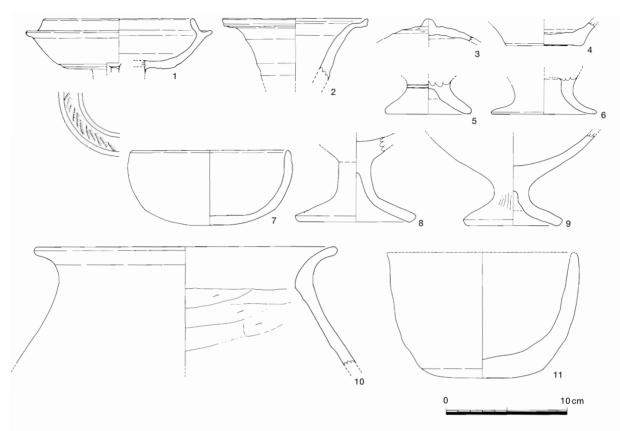


T-2-3完掘状況

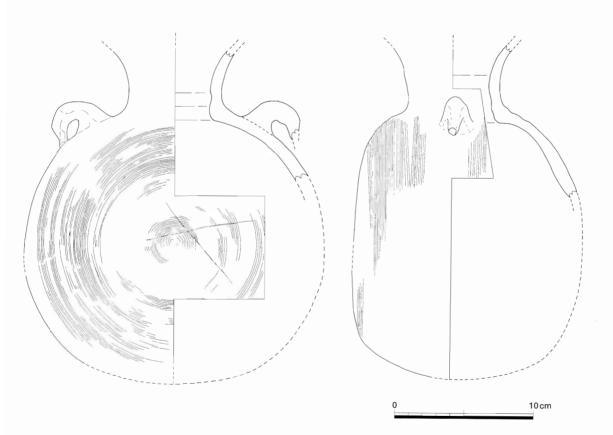
# 遺物について

ほとんどの遺物はT-2-2区とT-2-3区北端の第 $5\sim6$ 層中から出土している。

弥生土器(中期の甕口縁部、後期の甕口縁部) 土師器(古墳時代中〜後期の椀、高坏、甕、竈等) 須恵器(古墳時代後期の蓋坏類、提瓶、壺、甕、歴史時代の坏底部等) 土師質 土器(糸切りの底部片)



第122図 第2調査区出土遺物実測図(I)



第123図 第2調査区出土遺物実測図(Ⅱ)

# 第3調査区

土層について

第1層 水田耕作土

第2層 淡灰色粘質土

第3層 黄茶色粘質土 (小~中礫を多く含む) 遺物多量

第4層 灰褐色粘質土 (小~大礫を含む) 遺物多量

第5層 灰橙色~橙色粘質土 (礫を多く含む部分と全く含まない部分がある。) 遺物なし

調査区の北半では第3層の直下が第5層であったが、南半では第4層が堆積していた。坪堀1、2 は南半と同様の堆積状況であったが、坪堀3、4は第2層の直下は第5層になっていた。



第3調査区全景

## 遺構と遺物について

第5層上面で竪穴式住居跡3棟、掘立柱建物跡2棟が検出された。

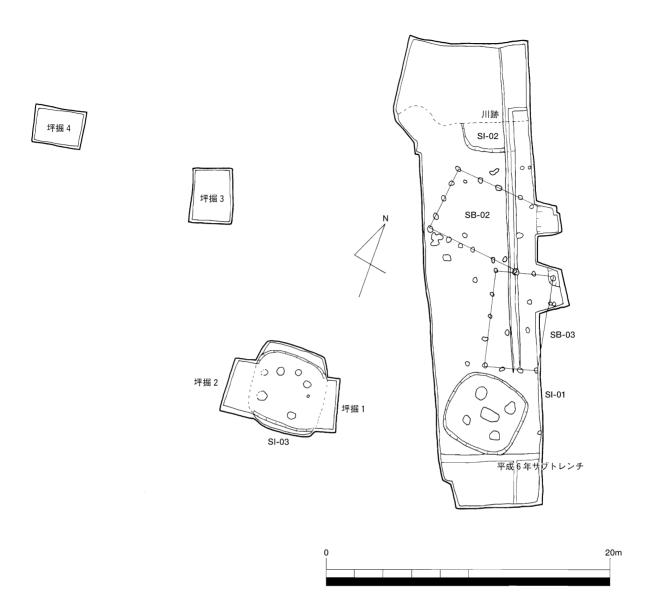
## SI - 01



S I -01検出状況

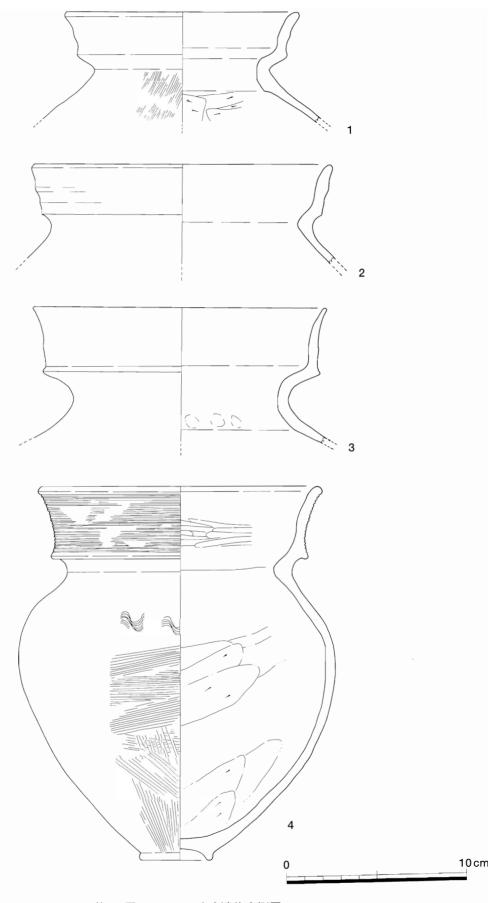


SI-01遺物出土状況

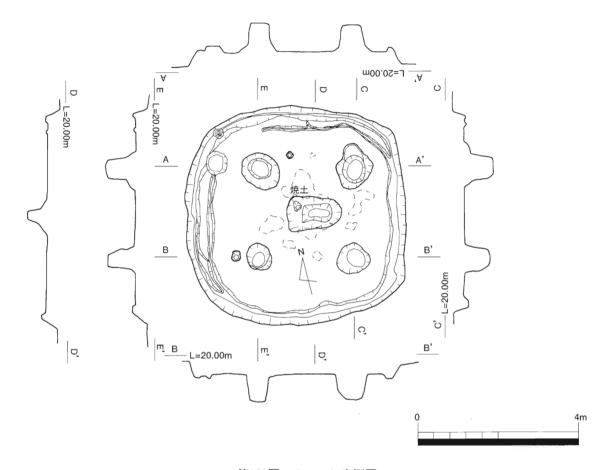


第124図 第3調査区平面図

平面形は円形に近い隅丸方形で、大きさは検出面で5.4×5.4mあり、深さは床面まで約30cmある。 主柱穴は4本である。柱穴の掘り方は50~70cm、深さ60~70cmを測り、柱痕は直径20~25cmであった。中央部にはピットがあり、上端周辺が焼けて炭が広がっていた。周壁の直下には周溝が巡り、北と西では2条に別れている。西の隅の床面には複合口縁を持つ甕が2個伏せた状態で検出された。そのうち1個は完形を保ち、小さな台をつけた底部を持つものである。床面には他に複合口縁の甕数個体が散在しており、また軽石が1個出土していて注目される。これらの出土遺物により、この住居は弥生時代後期後半のものと判断される。



第125図 SI-01出土遺物実測図



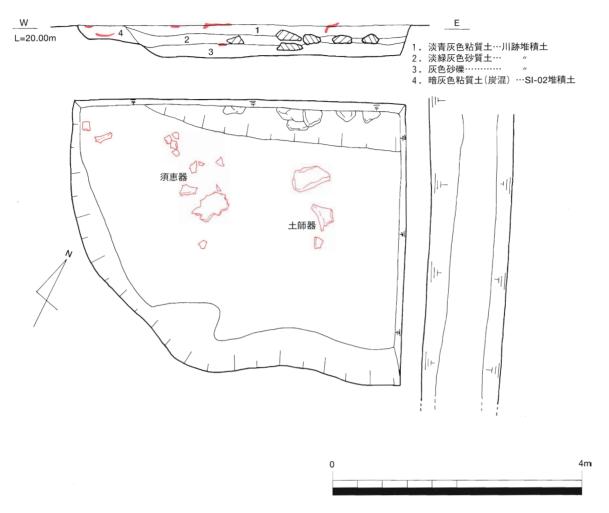
第126図 SI-01実測図



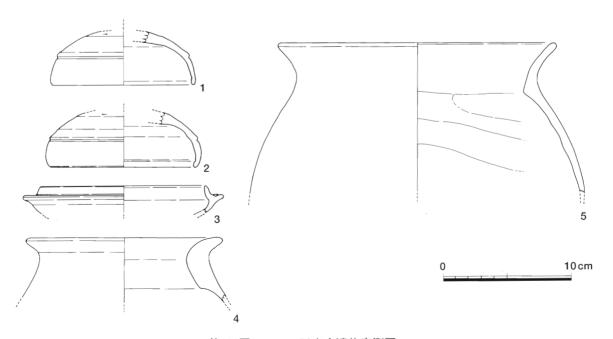
S I 一02検出状況

# SI - 02

検出時の平面プランと検出面に多くの土器 片が見られたことから、竪穴式住居跡と考え て調査を行った。東側部分についてはトレン チ調査を行った時点では平面プランに気づか ず断面の観察で落ち込みを確認したものであ る。北側部分については川跡によって削り取 られていた。残存部分は東西約3m、南北約 2m、深さは10~20cmである。遺物は検出面 付近に多く、古墳時代後期の須恵器(坏蓋類、 甕片等)、土師器(甕、竈等)がある。柱穴 は調査範囲では検出されなかったが、川で流 された部分にあったかもしれないので、建物 跡の可能性を考えた。



第127図 SI-02実測図



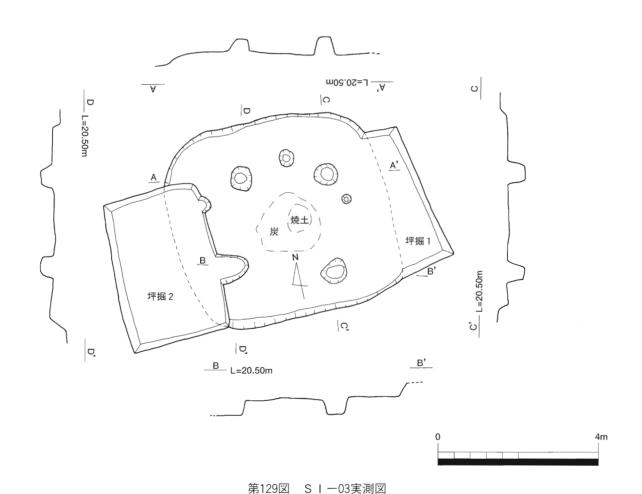
第128図 SI-02出土遺物実測図

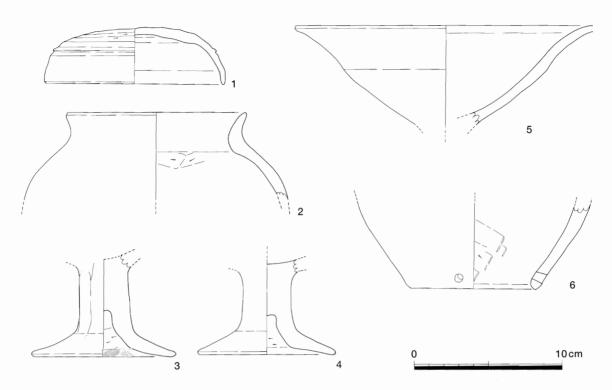


SI-03検出状況

# SI - 03

坪掘2の東壁に住居跡と思われる土層断面が見られたので拡張調査したものである。平面形は隅丸方形で、規模は南北5m、東西推定5.4m、深さ20~40cmを測る。主柱穴は4本あり、床面中央部にはよく焼けた焼土と炭が見られた。住居跡内部からは古墳時代後期の須恵器や土師器が出土しており、この時期のものであろう。

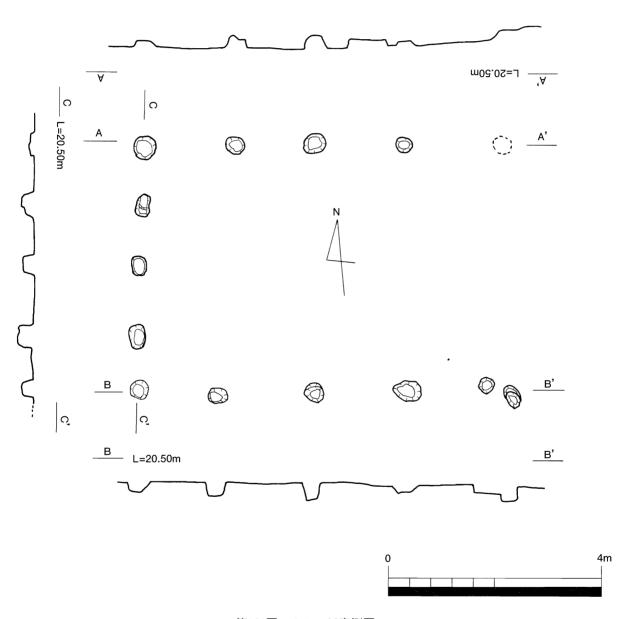




第130図 SI-03出土遺物実測図

# SB-02

東西4間(7m)または4間以上(東側する柱穴を検出しきれなかったため)、南北3間(4.5m)の東西に長い建物である。ピット中及び検出面の須恵器から古墳時代後期のものと考えられる。



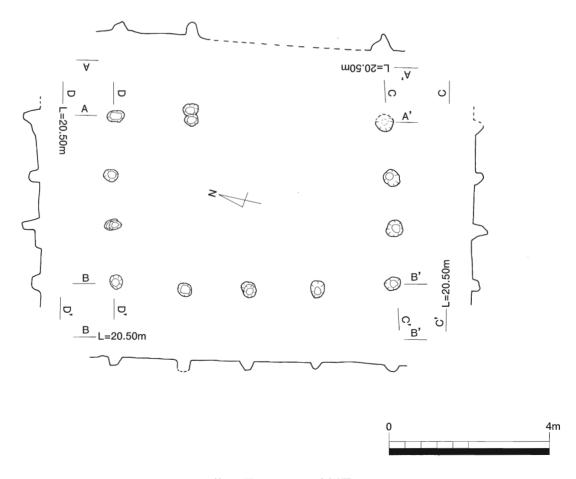
第131図 SB-02実測図



SB-02検出状況 SB-03検出状況

# SB - 03

東西 3 間 (4 m) ×南北 4 間 (7 m) の南北に長い建物である。検出面の土器から古墳時代後期のものだと考えられる。



第132図 SB-03実測図

#### 後期調査

現地調査期間·····平成8年10月15日~12月24日 調査箇所·····松江市上本庄町松ヶ根1587番地外

調査は14ヶ所にトレンチ( $2 \times 10$ mもしくは $25 \times 8$  m)を設定し行った。

10工区の西側( $T-1\cdot 3\cdot 4\cdot 7\sim 10$ )は大半が自然堆積層と考えられ、遺構は確認されず遺物は第1層~3層で数片出土した。東側( $T-2\cdot 5\cdot 6\cdot 11\sim 14$ )は土石流などと一緒に流れ込んできたと思われる遺物が多く出土したが、T-11を除いて遺構は確認されなかった。T-11では小穴(ピット)が検出されたが、詳細は不明である。



10工区全景



T-5完掘状況



T-6完掘状況

# 各トレンチの調査概要

T-1、2は土層が粘質土による自然堆積層で、 礫はほとんど見られなかった。遺構は確認されず、 遺物は土師器、須恵器、磁器などの細片が数片出土 した。

T-3、4は小さな礫を含んだ層が見られた。遺構は確認されず、遺物は須恵器、土師器の細片が数片出土した。

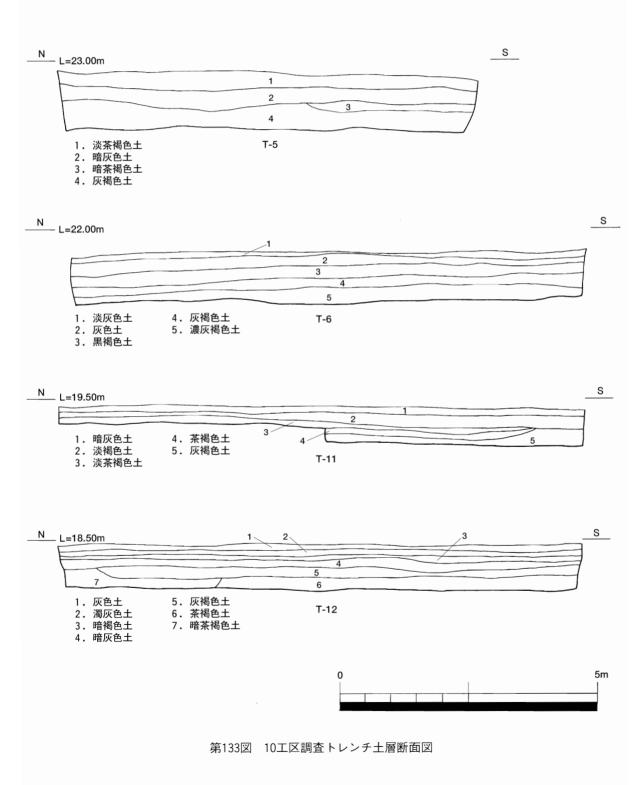
T-5、6は河川(本庄川)の氾濫による土石流で流れ込んだと思われる大型の石が多数見られた。遺構は確認されなかったが、遺物は土師器、須恵器の細片は多く出土したが大半が摩滅しており土石流と一緒に流れ込んだものと思われる。

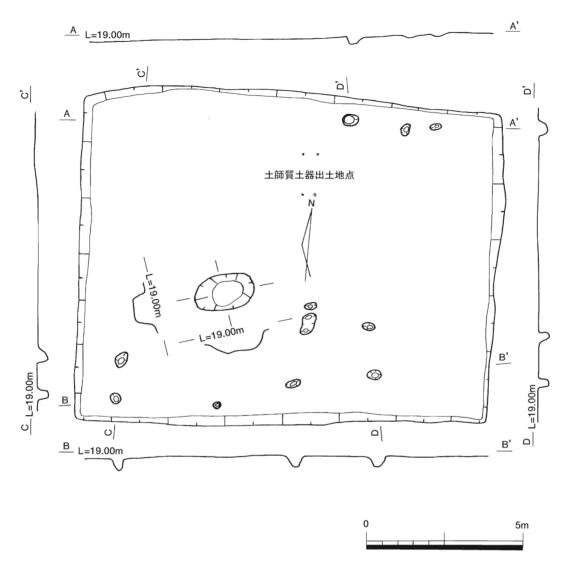
T-7はトレンチの付近に送電線用の鉄塔があり、建設時に掘り返され再び埋め戻されているため 土層は攪乱されている。遺構は確認されず遺物は須 恵器片が数片出土した。

T-8・9の付近は地主の話によると明治時代に くぼ直しをしたらしくその痕跡が見られた。小さな 礫を含んだ層があり、中央でその層の上に粘質土が 乗せて平坦な地形にしている。遺構は確認できず遺 物は土師器片が数片と磁器片が出土した。

T-10は礫混じりの層が見られたが、遺構は確認 されず遺物は須恵器片、陶器片が数片出土した。

T-11は10工区の南東側に位置し、扇状地の先端 部と思われる。耕作土の下は小さな礫を多量に含ん だ層が堆積し、層の上面に土師質土器がほぼ南北方 向に並んですべて口縁部を上に向けて数枚重ねた状態で出土した。また土師質土器の検出面からは鉄製品が出土した。この礫混入層からは土師器・須恵器・白磁などの細片が多量に出土した。遺構はこの礫混入層の下面からいくつかのピットを検出したが詳細は不明である。





第134図 T-11実測図



土師質土器出土状況



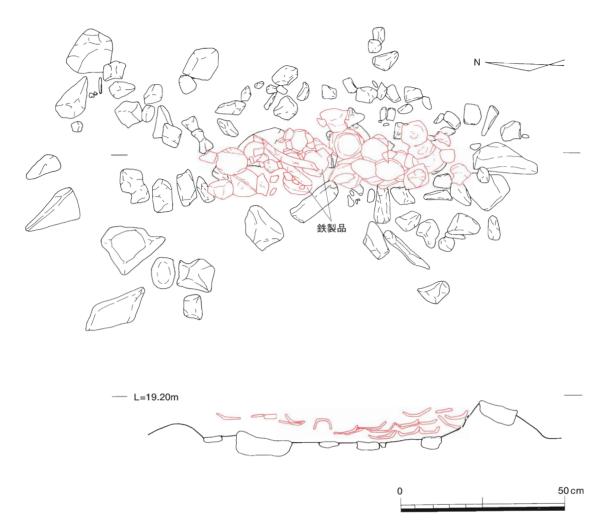
鉄製品出土状況



T-12完掘状況

T-12では遺構が確認されなかったが、第2層から第4層にかけて土師器や須恵器の細片など多くの遺物が出土している。

 $T-13\cdot 14$ では遺構が確認されず、遺物も土師器や須恵器の細片が数片出土した。

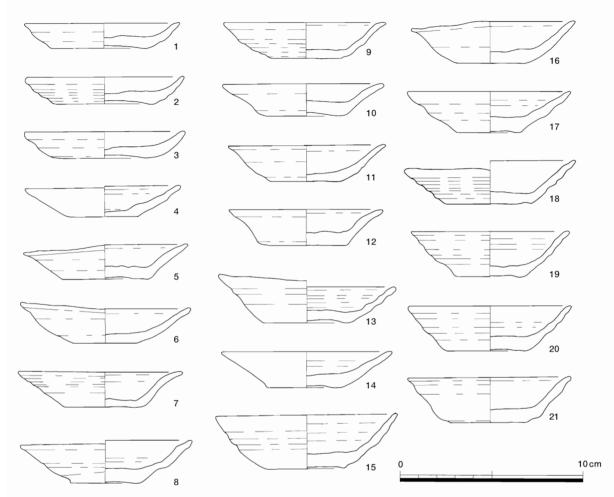


第135図 T-11遺物出土状況図

# 遺構について

土師質土器は礫の上に置かれた状態で出土したが、この付近を精査した結果、礫は人為的に組み合わされたものではなく、土砂とともに流入していた痕跡が見られたため自然に流れ込んでたまったものと思われる。以上のことから土師質土器は礫の中にある土を若干取り除いてやや掘り窪めた状態で置いたと考える。

また土師質土器を検出した層の下面からいくつかのピットが確認されたが、土師質土器とは検出した面が異なり、また礫混入層から出土した遺物には時期幅が見られるため土師質土器との関係は現在のところ不明である。土師質土器の出土状況から埋葬に使われたものではなく祭祀に使われたと考えられ、関係があるとすればその祭祀に関連した建物跡もしくは施設跡とも考えられる。しかし、この辺りの土壌は非常に軟弱な礫混入層であり検出したピットも小規模のため、恒久的なものよりも一時的なものと考えられる。



第136図 T-11出土土師質土器実測図

## 遺物について

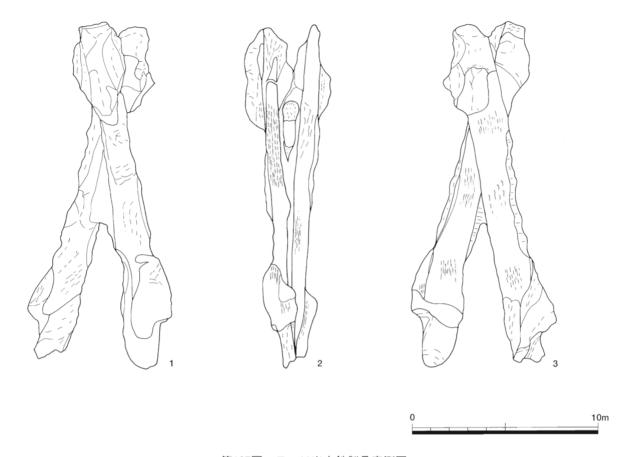
10工区で出土した遺物は、全体的に時期幅がありその大半が摩滅しており流れ込んできたものと思われ、 $T-5\cdot 6\cdot 11\cdot 12$ 以外は数片程度しか出土していない。。ここでは代表的なものを取り上げてみた。

T-5から出土した甑は把手部分だが、この把手は差し込みによって取りつけられており、古墳時代中期によく見られる技法の一つである。

T-11から出土した須恵器は同じ層から高坏、回転糸切り痕をもつ碗、皿類、高台付の皿などが出土しているが、かなりの時期幅が見られる。白磁は横田・森田両氏の出土陶磁器形式分類表の碗Ⅳ類に相当すると思われ、12世紀後半以降のものである。

土師質土器はすべて底部に回転糸切り痕が見られ、形態は碗形や皿型などさまざまである。口径は10cm前後と小型のものが大半であり、口縁部に油煙痕など灯明皿として使った痕跡が見られないことから供膳具として使用したと思われ、形態から12~13世紀のものと思われる。また同地点から出土した鉄製品は形状から刀子もしくは小刀の類と思われる。

T-12から出土した施釉皿は内面にのみ釉が施されており、また焼成時と思われる砂目積みの跡が内面に見られる。



第137図 T-11出土鉄製品実測図



T-11出土鉄製品

# 平成9 (1997) 年度

現地調査期間……平成9年5月6日~7月31日

調査箇所……松江市上本庄町字荒船1995-1番地外

本調査地内に、10×2mの規模を基本とする、9本のトレンチを設定して遺跡、遺構の有無の確認 調査を実施した。



12工区全景

 $T-1\sim4$ は同じ谷の水田に設定し、T-1が谷の奥面にまたT-4が谷の入り口面に位置する。

## $T-1 \cdot 2$ について

双方ともに、耕作土 (表土) の下は砂礫層 (地山) であり、遺構は検出できなかった。遺物も出土 しなかった。



T-1完掘状況



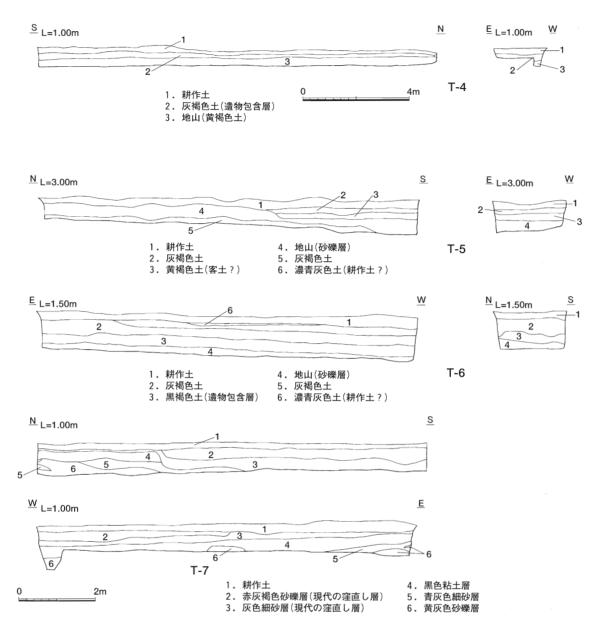
T-2完掘状況

# T-3について

耕作土(表土)の下には灰褐色土、黒褐色土が堆積しており、その下に砂礫層(地山)が認められた。 遺構、遺物は検出されなかった。

# T-4について

耕作土(表土)の下に遺物を含む厚さ約16cmの灰褐色土があり、その下に黄褐色土(地山)が認められた。遺構は検出できなかった。遺物は、古墳時代後期と思われる須恵器の甕片が1片ほど出土した。



第138図 平成9年度調査トレンチ土層断面図



T-3完掘状況



T-4完掘状況

 $T-5\cdot6$ は、 $T-1\sim4$ とは別の谷の水田に設定し、T-5が谷の奥側に、またT-6が谷の入口側に位置する。

#### T-5について

耕作土(表土)の下に遺物を含む厚さ約30cmの暗褐色土が堆積しており、その下に砂礫層(地山)が認められた。このトレンチの南側半分では表土と暗褐色土の間に灰褐色土と黄褐色土が認められたが、この堆積状況などから後世に客土されたものと判断できた。しかし、遺構は検出されなかった。遺物は須恵器が計8片程出土しており、坏、皿、壷、甕などの器種が認められた。これらは、口縁部の形態的特徴や底部回転糸切りという技法的特徴から、8世紀中頃~9世紀前半と思われる。

#### T-6について

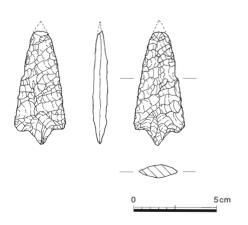
耕作土(表土)の下に灰褐色土が堆積し、その下に遺物を含む厚さ約30cmの黒褐色土があり、地山の砂礫層へと続く。遺構は検出されなかったが、遺物は多種にわたって検出されておりその中心の時期は概ね8世紀中頃~9世紀前半になると思われる。この中で最も古く遡るものとしては、縄文時代草創期と思われる安山岩質の有舌尖頭器や縄文土器片が認められ、また弥生時代末期の「草田4式~6式」と思われる甕片が2~3片ほど出土した。それ以後では、古墳時代~9世紀前半の須恵器、中世の亀山焼系の甕片、中世末期と思われる瓦片、近世以降の陶磁器などが多く出土した。この他には、砥石及びその可能性が認められるものが5個ほど出土した。



T-5完掘状況



T-6完掘状況



第139図 T-5出土有舌尖頭器実測図



T-5出土有舌尖頭器

#### T-7について

T-7は、 $T-1\sim4$ が位置する谷と $T-5\cdot6$ が位置する谷の合流地点である。この付近が周囲より一段高いことから何らかの遺構が存在する可能性が高いと思われた。しかし調査の結果、耕作土 (表土)の下に黒色粘土層を削平する状態で、昭和30年代の耕地整理の「窪直し跡」である砂礫層が認められたが、遺構は検出されなかった。また黒色粘土層の下には細砂層、砂礫層が認められた。遺物は、窪直し層の砂礫層から現代のビニール紐と共に凹石、黒曜石片、現代陶磁器片などが計 5 個出土した

## T-8について

耕作土(表土)の下に灰褐色土が堆積し、その下に砂礫層(地山)が認められた。遺構・遺物ともになかった。



T-7完掘状況



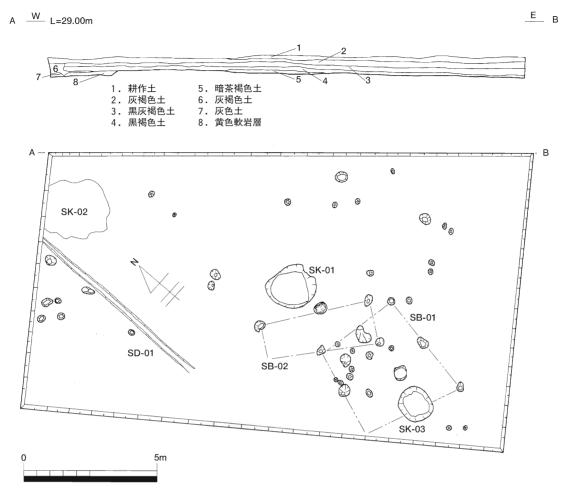
T-9完掘状況



T-8完掘状況

# T-9について

T-9は調査区西側の周囲より一段高い水田地に位置しており、何らかの遺構が存在する可能性が高いと思われた。調査の結果、地山である黄色軟岩層面で掘立柱建物跡2棟、土壙状遺構が2基、柱穴と思われる(小穴)が十数穴検出できた。層序としては、耕作土(表土)の下に灰褐色土、黒灰褐色土、黒褐色土、暗茶褐色土が堆積し、その下に地山が認められた。



第140図 T-9実測図



SB-01検出状況



SB-02検出状況

SB-01は2×2間の掘立柱建物跡で、柱間寸法は南北で2.0~2.2mを測り、東西で1.6~1.7mを測る。またSB-02は2×1間の東西棟の掘立柱建物跡で、柱間寸法は東西で1.9~2.3mを測り、南北で1.7mを測る。この2棟の建物跡の柱穴中から出土した遺物で最下限の時期を示すものは10世紀前半頃と思われる坏底部片である。



SK-01検出状況



SK-03検出状況

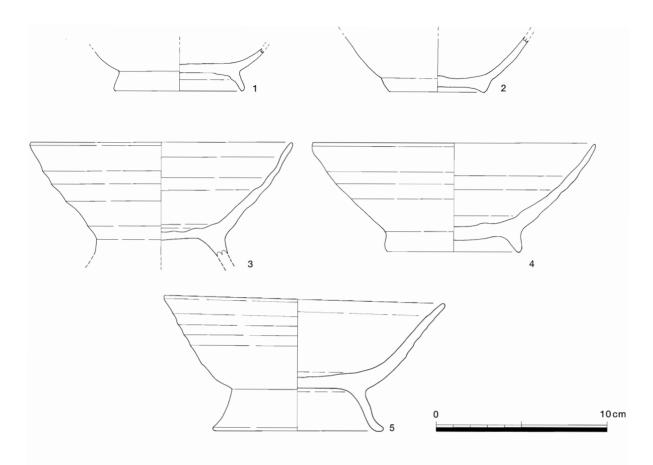
#### S K - 01

SK-01は楕円形の平面形を呈し、径1.6~1.8m、深さ1.3m以上を測るもので、検出面より約20cm下までは暗茶褐色土が入り込んでおり、非常に埋土が堅かった。その下には11世紀代と思われる高台付の坏を含む灰褐色土がかなりの厚さで堆積していた。約1.0m下からは大小の礫が確認されると共に湧水が激しくなり1.3mから下には掘り下げられず、床面は検出できなかった。しかしピンポールで深さを確認したところ、それより下方に更に1.2m以上下がることが分かった。

#### S K - 03

SK-03は円形の平面形を呈し、径1.2~1.3m、深さ30cmを測る。この土壙内から礫及び遺物が出土した。遺物の中で最下限の時期を示すものは10世紀前半頃と思われる坏底部片である。

SK-02は調査当初遺構と思われたが、底の凹面が著しく埋土の土層堆積状況も整然とせず出土遺物も僅かであった。これらのことより、この土壙は遺構ではなく風倒木痕と思われる。また、SD-01は埋土が耕作土と同じであることより水田耕作用の暗渠と思われる。



第141図 SK-01出土遺物実測図

#### 梨子谷遺跡

現地調査期間……平成9年8月13日~10月1日

調査箇所……松江市上本庄町字梨子谷964-2番地外3筆

平成8年度に14工区についてはトレンチ8箇所による試掘調査を実施したが、堆積土中から摩滅した土師器の細片5片が検出されたものの、遺物包含層と判断できるものではなく、また遺構面も検出されなかったことから、工事区域内に遺跡の存在は無いものと判断した。

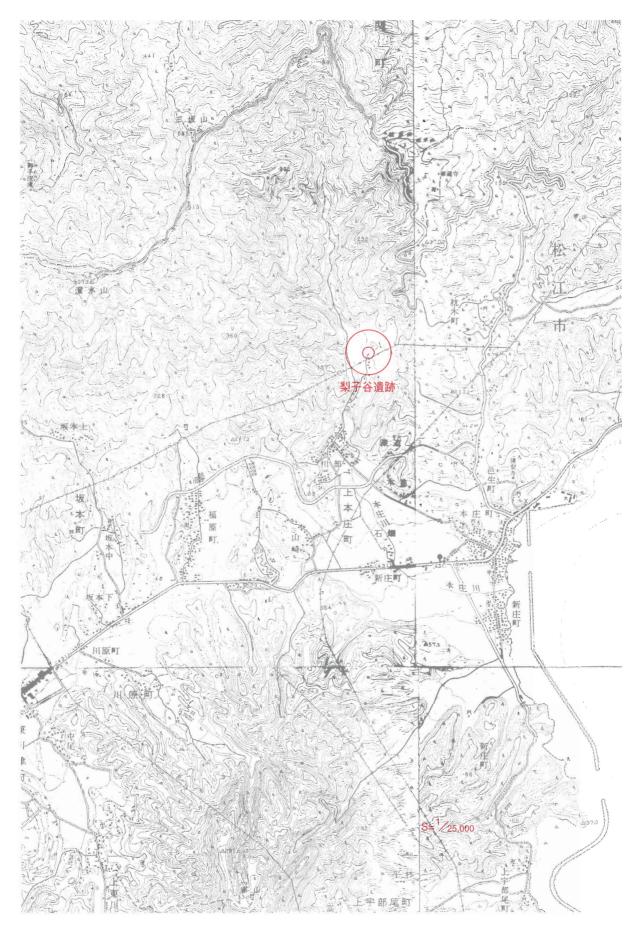
その後平成9年度の工事に際して、工事施工業者から工事中に土器片を発見したとの連絡を受け、 現地へ赴いたところ東側丘陵裾部分で耕作土の下層より須恵器、土師器の散布が見られ、一部地山面 の露出している部分では溝状のプランが見られた。この時点での工事の進捗状況は、既に切土工及び 盛土工をほぼ終えており、旧地形を留めていなかった。

地山面が露出していた区域を精査した結果、3条の溝状遺構のプランが検出された。SD-01は長さ7.5m、幅60cm、SD-02は長さ2.6m、幅30cm、SD-03は長さ3.0m、幅30~80cmをそれぞれ測る。この内SD-01、02は暗灰褐色粘質土、SD-03は暗茶褐色の埋土が見られた。なお、地山面での遺物は検出されなかった。

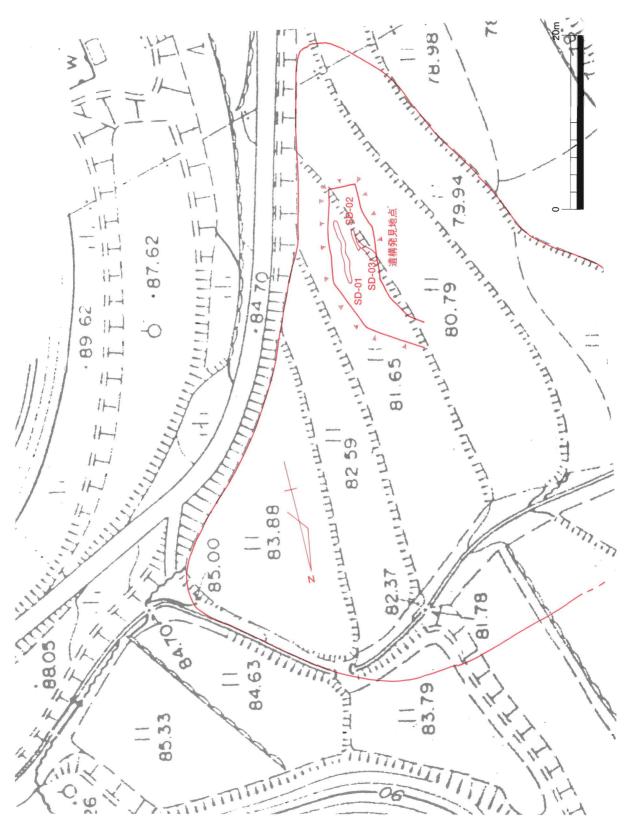
水路設置場所での断面調査の結果は、B・C地点間で遺物包含層が認められ、B地点より東方~本 庄川に至る区域では認められなかった。断面調査及び工事中に採集された遺物は古墳時代後期~奈良 時代にかけての須恵器、土師器が大部分で、平安時代以降と思われる土師質土器片が若干混在してい る状況であった。また、地山面は東端丘陵裾部で見られるのみであった。



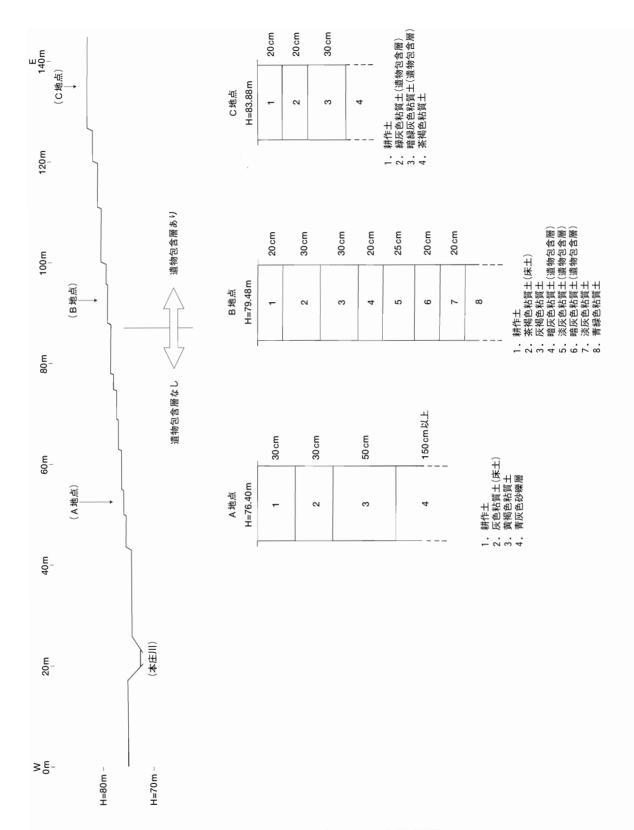
14工区全景



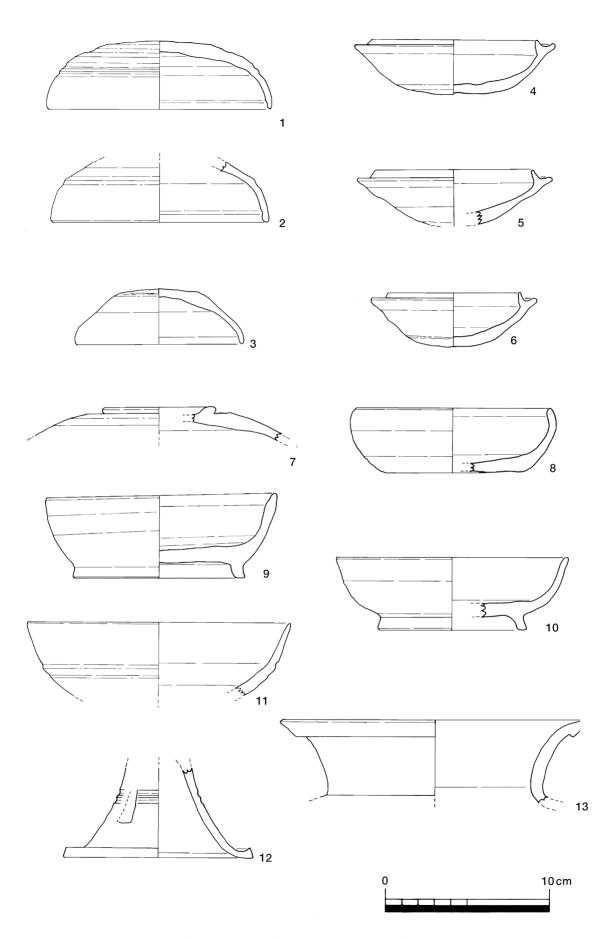
第142図 梨子谷遺跡位置図



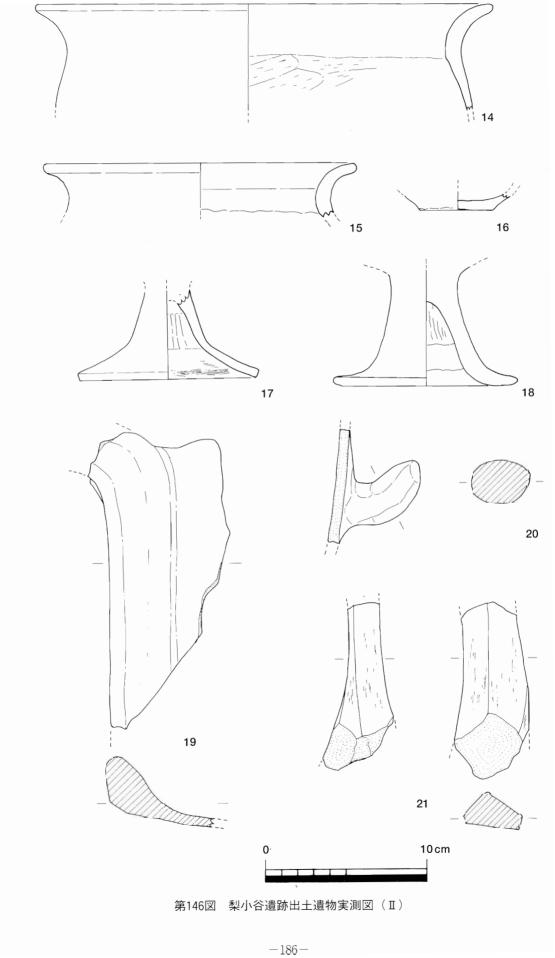
第143図 溝状遺構 (SD-01・02・03) 平面図



第144図 梨小谷遺跡調査トレンチ土層断面図



第145図 梨小谷遺跡出土遺物実測図(Ⅰ)



## Ⅳ. 結 び

松江北東部遺跡東側については昭和61~63年度の調査で、竪穴住居跡、柱穴、土壙、溝状遺構、地山加工段を検出したが、竪穴式住居跡以外は伴出する遺物が無かったことから、時期・性格を言及することはできなかった。出土遺物についても細片で摩滅したものが多く、時期を確定するには至らなかった。

的場遺跡は平成元年度に南側の全面調査及び北側の試掘調査を実施した。その結果、的場丘陵西側 で弥生時代後期と古墳時代の竪穴式住居跡をそれぞれ1棟ずつ、古墳2基を確認し、弥生時代~古墳 時代にかけての生活を偲ばせる。東側で11棟の掘立柱建物跡、土壙 1 、性格不明遺構の土壙 6 、井戸 1、溝状遺構2、小鍛冶跡1がそれぞれ確認された。掘立柱建物跡に付いては住居及び倉庫として利 用されたものと考える。重複して検出されることから、中~近世にかけての長い期間の生活を伺わせ る。平成2年度は平成元年度調査区北側を調査した。その結果、弥生時代~中世にかけての遺構が検 出された。弥生時代において的場丘陵は生活空間として利用されていたことが判明した。しかし、検 出された住居跡は合計3棟のみであり、集落を形成していたとは考えにくく、どのような性格の生活 空間であったのかは不明である。古墳時代においても生活空間として利用されているが、住居跡は1 棟のみであり、この時代に古墳が11基築造されていることから、むしろ基地としての空間として利用 されていたと考えられる。的場丘陵の古墳群は概ね5世紀末頃である。ところで、本庄平野の北、西 方をとりまく低丘陵上のほとんどには方墳を中心とした古墳群が展開しており、そのうち石室が確認 されている古墳が少なくない。これらの古墳群と比較して的場古墳群は更に低いほぼ平地に近い丘陵 上に立地しており、この違いが時期的なものか、あるいは階級などの規制によるものかは興味深いと ころである。中世にはいると的場古墳群はすべてが削平され、掘立の建物が建てられるようになり、 再び生活の空間として利用されるようになる。掘立柱建物跡には庇のつくものが多く、しかも規模が 大きいため肥沃な本庄平野を背景として君臨した豪農または豪族の居館があった可能性も考えられ

的場丘陵北側の3工区では試掘調査の結果、旧河川状遺構及び木製品が検出されている。

松江北東部遺跡の西側11工区については平成2、3年度に調査を実施したが、遺物の出土状況が西側水田に比較的多く偏っており、西側丘陵上に存在した何らかの遺構が消滅した際に、遺物が流れ込んだものと考えられる。

京殿遺跡は平成3、4、5年度に調査を実施した。その結果、本庄川流域に沿って9工区ほぼ全域にわたっていることと、遺構を伴わない遺物散布地であることが判明した。遺物は6~8世紀を中心とした須恵器片、土師器片が無数に出土しているが、その一方で、祭祀用に使われたと考えられる土馬、手捏土器も出土している。遺物の大半が摩滅した細片で砂礫層上層から出土していることと、9工区が山裾の扇状地であることから推定すると京殿遺跡は本庄川の氾濫で二次的に堆積したものと思われる。出土遺物の中に丹塗土師器片、硯片を含んでいることから寺院、官衙に関連があった可能性も考えられる。中西3号墳については周溝が検出されず、古墳とは断定できないが、付近に古墳が多

いことから9工区西側の丘陵地は、古墳時代の墓城として利用されていたものと考えられる。

松江北東部遺跡ほぼ中央の7、8工区については平成5~8年度において調査を実施した。7工区 については検出された建物跡とその上を覆った土石流との遺物の関係は、大規模な土石流によって当 時の生活が一瞬のうちに失われてしまった状況をよく伝えており、古墳時代後期のある時期に相当な 天変地異があったことをしめしているものと思われる。本庄川の度重なる氾濫によって土石流と小さ い浸食とが繰り返されており、礫を含む層の上に粘土層が被り、その上にまた礫を含む層の上に粘土 層が被り、その上にまた礫を含む層が被るという堆積状況が壁面でよくわかる。弥生~中世頃の遺物 が混在しているので各時代の住居跡や古墳などが流されて堆積したものであろう。検出された竪穴式 住居跡 3 棟、掘立て柱建物跡 2 棟は、SI-01と他の遺構とは明らかに時期の違うものであるが、検 出面は同じであり、これは掘立柱建物跡が建てられるとき弥生時代の遺構面の上部が削平されたこと によるものか。また、SB-02と03は近接しており、建物の方向もやや違ってるので、同じ古墳時代 後期の中でも時期差のある建物と考えられる。第3調査区一帯は原ノ後遺跡として周知された場所で あり、須恵器、土師器などが多く表面採集されることで知られていた。建物跡が検出されたことが遺 跡の性格を解明することに繋がった。8工区は弥生時代中期~古墳時代の遺物が出土したが、遺構は 検出されなかった。このことは本庄川の氾濫による影響を受けたものと思われる。10工区については、 平成元、8年度に調査を実施したが、条里制を示すものや集落の痕跡を示す遺構は確認されなかった が、遺物の出土状況から本庄地区の集落は度重なる本庄川の氾濫によって何度も土砂が埋まり、埋 まった土砂の上に再び集落を形成した形跡がある。集落の境界は10工区よりも東側にあったと推測さ れる。

荒船遺跡については平成9年度に調査を実施したが、遺構としては掘立柱建物跡2棟、土壙状遺構2、柱穴十数穴確認された。2棟の掘立柱建物跡とSK-03は出土遺物により同時期の10世紀前半頃の遺構であり、両者の関係はかなり密接であると考えられる。しかし、2棟は重複しており時期的に前後関係があると思われるが、詳細なことは不明であった。検出された建物跡の付近は湧水が非常に激しく日常生活には適さず、また建物跡の規模などから検討すると住居ではなく、簡単な作業棟の可能性が高いものと思われる。日常生活のための住居は本トレンチ上方東向きの緩斜面(調査予定地外)に存在したのではないかと思われる。また、SK-01はその規模や残存状況から井戸の可能性もあり、11世紀に廃棄され、後世に整地されたと考えられる。

梨子谷遺跡については平成9年度に調査を実施し、遺物は厚く堆積している流入土中からの出土であることから、遺物散布地であると考えられる。検出された遺構については、性格は不明であるが、 周辺一帯で採集された土器類の組成から推測して、集落に関連するものと思われる。

#### 昭和61年度出土遺物観察表

挿図番号	器 種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点				
第20図 1	須恵器: 甕		密	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	外面は平行叩き。内面は同心円叩き。	T-1				
第20図 2	須恵器: 壷		密	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	摩滅のため調整は不明。	T-1				
第20図 3	陶磁器:高台付碗	推定底径:5.4	密	良好	外面:淡緑色 内面:淡緑色	内外面共に淡緑色釉が施してある。	T-2				
第20図 4	陶磁器:壺		密	良好	外面:灰色 内面:灰色	外面に灰釉を施す。	T-2				
第20図 5	陶磁器:摺鉢		密	良好	外面:灰色 内面:暗灰色	内外面共に平行ナデ。備前焼。	T-2				
第20図 6	陶磁器:摺鉢		審で2㎜程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:濃茶色 内面:灰色	内面に灰釉を施す。備前焼。	T - 3				
第20図 7	土師質土器:皿	推定口径:3.9 推定底径:2.0 器 高:1.5	密	良好	外面:黒褐色 内面:黒褐色	内外面共平行ナデ。底部は回転糸切り。	T-3				
第20図8	須恵器:坏蓋		密	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外面共に回転ナデ。	T - 3				
第20図 9	石器:石鏃				外面:黑色 内面:黑色	黑曜石。	T - 3				
第20図10	陶磁器:摺鉢	推定底径:11.6	審	良好	外面:茶褐色 内面:茶褐色	体部内外面共に回転ナデ。底部外面は回転糸切り。 備前焼。	T-3				
第20図11	土師器:円筒埴輪		審	良好	外面:茶褐色 内面:茶褐色	内外面共にハケメ。	T-4				
第20図12	須恵器:坏蓋		密	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	外面は回転ナデ。内面は不整方向のナデ。	T-4				
第22図1	土師器: 甑	推定底径:13.3	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:黄白色 内面:黄白色	摩滅のため調整は不明。	S I -01				
第22図2	土師器:高坏	推定口径:26.0	密で1㎜程度の白色砂粒 を多く含む。	良好	外面:茶色 内面:黑茶色	外面はタテ方向のハケメ及びヘラミガキ。内面はヨ コナデ。	S I -01				
第22図3	土師器:高坏		密で1.5m程度の白色砂 粒を含む。	良好	外面: 黄色 内面: 赤黄色	摩滅のため調整は不明。	S I -01				
第22図4	土師器:低脚坏	推定底径:6.8	密で2㎜程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:赤黄褐色 内面:黄褐色	摩滅のため調整は不明。	S I -01				
第22図 5	土師器: 喪		密で0.5mm程度の白色砂 粒を含む。	良好	外面:黄褐色 内面:黄褐色	内外面共にヨコナデ。	S I -01				
第22図 6	土師器: 甍		密で0.5mm程度の白色砂 粒を含む。	良好	外面:明黄褐色 内面:明黄褐色	摩滅のため調整は不明。	S I -01				

### 昭和62年度出土遺物観察表

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手 法 ・ 調 整 の 特 徴	出土地点
第28図1	陶磁器:皿	推定口径:26.0	審で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:茶色 内面:茶色	内外面共に淡緑色釉を施す。	T-2
第28図 2	石器:剥片				外面:黑色 内面:黑色	黑曜石。	T - 3
第28図3	土師質土器:皿	推定底径:5.4	密	良好	外面:赤褐色 内面:黄褐色	底部は回転糸切り。	T-6
第28図 4	須恵器;高台付坏	推定底径:10.0	密で0.5mm程度の白色砂 粒を含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外面共に回転ナデ。	T - 8

### 昭和63年度出土遺物観察表

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎土	焼成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点
第34図 1	土師器:高坏		審で2㎜程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面:茶褐色 内面:茶褐色	口縁部は内弯気味。	T-2
第34図 2	陶磁器:高台付坏	推定底径:5.1	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:淡緑色 内面:淡緑色	内面に淡緑灰釉を施す。	T-7
第34図3	陶磁器:高台付坏	推定底径:4.9	密で1㎜程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:淡綠色 内面:淡綠色	内面に淡緑灰釉を施す。坏部内面中央部に菊花様の 印花紋を施す。	T-7
第34図 4	上師質土器:Ⅲ	推定底径:5.6	密で2㎜程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:茶色 内面:茶色	摩滅のため調整は不明。	T-8
第34図 5	陶磁器:高台付坏		密で0.5mm程度の白色砂 粒を含む。	良好	外面:淡緑色 内面:淡緑色	淡緑色釉を施す。	T-9
第34図 6	陶磁器: 摺鉢		密	良好	外面:赤茶色 内面:赤茶色	内面に溝5条あり。	T-11
第34図 7	陶磁器:摺鉢		密	良好	外面:赤紫色 内面:赤紫色	摩滅のため調整は不明。	T-11
第34図 8	須恵器: 臺		密で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:黒褐色 内面:黒褐色	内外面共に回転ナデ。外面に2条の沈線、波状紋あり。	G - 1
第34図 9	土師器;円筒埴輪		密	良好	外面:淡茶色 内面:淡茶色	内外面共にハケメ。	G - 8
第34國10	須恵器:甕?		密	良好	外面:淡灰色 内面:淡灰色	外面に格子状の叩き痕あり。	G - 8
第34図.1	土師質土器;皿	推定口径:10.4	密	良好	外面:橙色 内面:淡茶色		G - 9
第34図12	須惠器:臺?		密	良好	外面:青色 内面:青色	外面に格子状の叩き痕あり。	G-12
第34図13	陶磁器:皿		密	良好	外面:白色 内面:白色	内面中央部及び高台部を除き白色の釉を施す。	G-14
第34図14	土師器:円筒埴輪		密	良好	外面: 橙色 内面: 橙色	摩滅のため調整は不明。	G-14
第34図15	須恵器:高坏	推定口径:15.2	密	良好	外面:青褐色 内面:青褐色		G-17
第35図16	陶磁器:皿		密	良好	外面:白色 内面:白色	外面に淡藍色の文様が描かれている。	G-18
第35回17	須恵器: 高坏	推定底径:6.8	密	良好	外面:青褐色 内面:青褐色		G-21
第35図18	陶磁器: 擅鉢		密	良好	外面:茶色 内面:茶色	内面に溝4条あり。備前焼。	G-21
第35回19	土師器: 土錘	全 長:3.0	密	良好	外面:茶色 内面:茶色		G-21
第35図20	弥生式土器: 童		やや粗く、0.5mm程度の 白色砂粒を多量に含む。	良好	外面: 橙褐色 内面: 橙色	内外面共にヨコナデ。外面に3条の沈線を施す。	G-22
第35図21	弥生式土器:甍		粗く1mm程度の砂粒を含む。	良好	外面: 橙褐色 内面: 橙褐色	摩滅のため調整は不明。	G -22

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手 法・ 調 整 の 特 徴	出土地点
第35図22	陶磁器:摺鉢	推定口径:30.4	密で2mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:茶褐色 内面:青褐色	体部はやや内弯気味に開く。内面に溝 5 条あり。	G -22
第35図23	須恵器:甕		密	良好	外面: 黒褐色 内面: 灰褐色	内外面共に回転ナデ。	G -22
第35図24	土師器 土錘	全 長: 3.6	密	良好	外面:茶色 内面:茶色		G -22
第35回25	土師質土器; 皿	推定口径:9.7 推定底径:4.4 器 高:2.3	密	良好	外面:茶褐色 内面:淡茶色	底部外面に回転糸切り痕あり。	G -23
第35図26	土師質土器:皿	推定底径:4.1	密	良好	外面:茶色 内面:茶色	底部外面に回転糸切り痕あり。	G-23
第35図27	土師器: 土錘	全 長:3.5	密	良好	外面:茶色 内面:茶色	外面にすす付着。	G-23
第35図28	須恵器:甕?		審	良好	外面:暗灰色 内面:暗灰色	底部外面はヘラ調整。	G-26
第35図29	須恵器: 壺		密	良好	外面:淡青色 内面:淡青色		的場丘陵表 採
第36図30	須恵質土器:土鍾	全 長:5.6	審	良好	外面: 黒褐色 内面: 黒褐色		的場丘陵表 採
第36図31	須惠器:体部		審	良好	外面:暗褐色 内面:暗褐色	外面に三角形の突帯が貼り付けてある。	的場丘陵表 採
第36図32	土師器: 土鍾	全 長:2.9	密で2mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:茶色 内面:茶色		的場丘陵表 採

### 平成元年度出土遺物観察表

	十八九千月五二退物既祭衣									
挿図番号	器種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手 法 ・ 調 整 の 特 徴	出土地点			
第56図1	弥生式土器: 寷	推定口径:20.2	密で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	やや不良	外面:淡黄灰色 内面:淡黄灰色	外面はヨコナデ、内面はヨコナデ及びヘラケズリ。	S I -02			
第56図2	弥生式土器:甕	推定底径:4.6	やや粗く、1 m程度の白 色砂粒を多量に含む。	ヌ	外面:淡黄灰色 内面:淡黄灰色	外面はヨコナデ、内面はヘラケズリ。	S I -02			
第59図1	土師器:低脚坏	推定口径:11.2	審で0.5mm程度の白色砂 粒を少量含む。	やや不良	外面:淡黄灰色 内面:淡赤灰色	摩滅のため調整は不明。	的場1号墳			
第59図2	土師器:低脚坏	推定口径:12.4	寄で0.5mm程度の白色砂 粒を少量含む。	良	外面:暗灰色 内面:暗灰色	摩滅のため調整は不明。内面にスス付着。	的場1号墳			
第59図3	土師器: 低脚坏	推定底径:8.0	密で0.5mm程度の白色砂 粒を少量含む。	良	外面:淡黄灰色 内面:黑灰色	内外面共にヨコナデ。	的場1号墳			
第59図4	土師器: 低脚坏	推定底径:8.0	密で0.5m程度の白色砂 粒を少量含む。	良	外面:淡赤褐色 内面:黑灰色	内外面共にヨコナデ。内面にスス付着。	的場1号墳			
第61図1	土師器:臺	推定口径:16.9	粗く2mm程度の砂粒を多量に含む。	やや不良	外面:淡黄灰色 内面:淡黄灰色	口縁内外面共にヨコナデ。体部外面はハケメ、内面 はヘラケズリ。	道路Ⅱ区 南拡張区			
第61図 2	土師器:臺	推定口径:13.2	審で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	口縁内外面共にヨコナデ。体部外面はハケメ、内面 はヘラケズリ。	道路Ⅱ区 南拡張区			
第61図3	土師器:甕	推定口径:16.3	やや粗く0.5mm程度の白 色砂粒を多量に含む。	やや良	外面:暗黄褐色 内面:暗黄褐色	口縁内外面共にヨコナデ。体部外面はハケメ、内面 はヘラケズリ。	道路Ⅱ区 南拡張区			
第61図 4	土師器:臺	推定口径:10.4	密で1㎜程度の白色砂粒 を少量含む。	良	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	口縁内外面共にヨコナデ。体部外面はハケメ、内面 はヘラケズリ。	道路Ⅱ区 南拡張区			
第61図 5	土師器: 甕	推定口径:13.9	やや粗く1 m程度の白色 砂粒を含む。	良	外面:黑灰色 内面:淡黑灰色	口縁内外面共にヨコナデ。体部外面はハケメ、内面 はヘラケズリ。	道路Ⅱ区 南拡張区			
第61図 6	土師器:高坏	推定口径:23.6	審で0.5mm程度の白色砂 粒を含む。	やや良	外面:淡黄灰色 内面:淡黄灰色	内外面共にハケメ。	道路Ⅱ区			
第61図 7	上師器:高坏	推定口径:18.7 推定受部径:10.3 器 高:12.3	やや密で1mm程度の白色 砂粒を少量含む。	良	外面:淡黄褐色 内面:暗赤褐色	外面はヨコナデ及びミガキ。内面はミガキ及びケ ズリ。	道路Ⅱ区 南拡張区			
第61図 8	土魳器:高坏	推定口径:21.7 推定受部径:13.5 器 高:14.3	密で0.5mm程度の白色砂 粒を少量含む。	良	外面:淡黄褐色 内面:淡黄褐色	外面はヨコナデ及びミガキ。内面はミガキ及びケズリ。	道路 II 区 南拡張区			
第62図 1	弥生式土器:甍	推定口径:14.4	審で1.5mm程度の砂粒を含む。	良好	外面:褐色 内面:褐色	摩滅のため調整は不明。外面に赤色順料付着。	T-16			
第62图 2	土師器:高坏	推定口径:16.6	審で1mm程度の砂粒を含む。	良好	外面:褐色 内面:褐色	外面はハケメ、内面はハケメ、ヘラケズリ後ヘラミガキ。	T-16			
第62图 3	土師器: 甕	推定口径:20.2	密で1.5mm程度の砂粒を 含む。	良好	外面:黄褐色 内面:赤褐色	外面はヨコナデ、内面はヨコナデ及びヘラケズリ。	T-1			
第62回 4	上師器:臺	推定口径:14.2	密で0.5m程度の白色砂 粒を多量に含む。	良	外面:黑灰色 内面:淡黄褐色	口縁内外面共にヨコナデ。体部外面はハケメ、内面 はヘラケズリ。	3 工区 道路 1 区			
第62図 5	硯				外面:淡緑灰色 内面:淡緑灰色	両面使用した痕跡があり、墨が一部残存。	SB-08			
第62図 6	輸入銭					<b>淳化元宝</b> 。	T - 8			
第62図 7	土師器:土錘	全 長:4.0 最大径:1.2	密で1mm程度の砂粒を含む。	普通	外面:赤褐色 内面:赤褐色		$T - A \boxtimes$			
第62図8	土師器:土鐘	全 長:6.25 最大径:1.85	密で 1 mm程度の砂粒を含む。	良好	外面:黑灰色 内面:黑灰色	指痕あり。	E − 3 🗵			
第62図 9	土師器:土錘	最大径:1.2	密で 1 mm程度の砂粒を含む。	良好	外面:黑灰色 内面:黒灰色	指痕あり。	E − 3 🗵			
第62図10	須恵質土器:土鐘	最大径:1.9	密で1㎜程度の砂粒を含む。	普通	外面:暗灰色 内面:黒灰色		E − 4 🗵			
第62図11	須惠質土器:土錘		密で1 m程度の砂粒を含む。	良好	外面:暗灰色 内面:黒灰色		E − 3 ⊠			

#### 平成2年度出土遺物観察表

挿図番号	器 種	法量 (cm)	胎土	焼 成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点
押固雏芳	福 包里	(Z: M (CIII)	加二二	戏几尺	巴酮	于 伍 · 詢 쓮 切 付 取	田土地尽
第85図 1	土魳器:低脚坏	推定口径:14.0 推定底径:9.0 器 高:10.3	審	良好	外面:茶色 内面:茶橙色	摩滅のため調整は不明。	的場 5 号墳
第85図 2	須恵器:器台		密	良好	外面:茶褐色 内面:灰褐色	外面全体に暗緑灰色釉が施されている。外面に7条 の波状文あり。	的場 9 号墳
第85図3	弥生式土器: 壷		やや粗く2㎜程度の砂粒 を多量含む。	良好	外面:橙色 内面:橙色	摩滅のため調整は不明。	S I -03
第85図 4	弥生式土器: 壷		やや粗く2 mm程度の砂粒 を多量含む。	良好	外面: 橙色 内面: 橙色	摩滅のため調整は不明。	S I -03
第85図 5	須恵器:廳	推定口径:11.5 器 高:12.7	密	良好	外面:茶褐色 内面:青褐色	脚部内外面共に回転ナデ。	S D -01
第85図 6	須恵器: 坏身	推定口径:10.0 受部径:12.0 器高:5.1	密	良好	外面:灰褐色 内面:灰褐色	体部内外面共に回転ナデ。	S D -01

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎土	焼 成	色 調	手 法・ 調 整 の 特 微	出土地点
第85図 7	須恵器:盤	推定口径:16.2 推定底径:11.0 器 高:11.0	密	良好	外面:青色 内面:青色	底部外面に回転糸切り痕あり。	T-15
第85図 8	須恵器: 坏身	口 径:10.2 受部径:12.6 器 高:5.3	密	良好	外面:淡灰色 内面:淡灰色	内外面共に回転ナデ。坏部内面は多方向ナデ。	S K-15
第85図 9	須恵器: 坏	推定底径:6.8	密	良好	外面:青色 内面:青色	底部外面に回転糸切り痕、「寺」と推定される墨書 を施す。	X − 9 ⊠
第85図10	土師質土器:坏	推定口径:13.0 器 高:4.3	密	良好	外面:赤茶色 内面:赤茶色	脚部内外面共に回転ナデ。脚部外面に三角形状の透 かし3方向にあり。	中世墓Ⅱ
第85図11	土師質土器:坏	推定口径:13.4 底 径:5.6 器 高:4.7	審で1㎜程度の砂粒を含む。	良好	外面:茶色 内面:茶橙色	摩滅が著しく調整は不明。赤色顔料付着。	中世墓Ⅱ
第85図12	陶磁器:同安窯系青磁碗	推定口径:15.6 推定底径:5.2 高:6.9	密	良好	外面:淡橙色 内面:淡緑色	摩滅が著しく調整は不明。	中世墓Ⅱ

## 平成3年度出土遺物観察表

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎土	焼成	色 調	手 法・調 整 の 特 徴	出土地点
第87図 1	土師器:壷	推定口径:10.2	密で1mm程度の白色砂粒 を多く含む。	良好	外面:灰褐色 内面:灰褐色	外面はヨコナデ、内面はヘラケズリ他ヨコナデ。	T - 3
第87図 2	弥生式土器:瓷	推定口径:13.8	審で1mm程度の白色砂粒 を多く含む。	良好	外面:褐色 内面:明褐色	摩滅のため調整は不明。	9 ⊥⊠ T − 5
第87図 3	弥生式土器: 畫	推定口径:15.6	密で1mm程度の白色砂粒 を多く含む。	良好	外面:褐色 内面:暗褐色	内外面共ヨコナデ。	9 工区 T - 5
第87図 4	弥生式土器: 壷	推定口径:15.8	密で2㎜程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:褐色 内面:赤褐色	摩滅のため調整は不明。	9 工区 T — 5
第87國 5	土師器: 壺	推定口径:16.6	審で5mm程度の白色砂粒 を多く含む。	良好	外面:明褐色 内面:明褐色	外面はヨコナデ、内面はヘラケズリ他ヨコナデ。	9 工区 T — 5
第87図 6	須恵器:廳		密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:淡青灰色	胴部最大径に瓢突紋、付近に1条の沈線を施す。	9 ⊥⊠ T −13
第87図 7	土師器:土錘	推定口径:0.8 全 長:2.6	密	良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色		T-20
第87図 8	陶磁器:董	推定底径:6.4	密で1mm程度の白色砂粒を多く含む。	良好	外面:褐色 内面:濃褐色	体部はやや内弯して伸びる。	T-6
第87図 9	須惠器:高坏	推定口径:15.6 器 高:10.2	やや粗く、1 mm程度の白 色砂粒を含む。	不良	外面:灰色 内面:灰色	内外面共回転ナデ。坏部は内弯して伸びる。	9 工区 T — 5
第87図10	陶磁器:染付皿	推定口径:12.6 推定底径:6.4	密	良好	外面:灰色 内面:灰色		T-20

## 平成3年度9一A区出土遺物観察表

144 100 100 100							
挿図番号	器種	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	手法・調整の特徴	出土地点
第92図 1	須恵器:高坏	推定口径:9.0	密で2 m程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	外面は回転ナデ。内面は回転ナデ及びヘラナデ。	9 - A 🗵
第92図3	陶磁器:坏	推定底径:4.4	密	良好	外面: 黄灰色 内面: 乳白色	削り高台を有す。体部は緩やかに内弯。	9 – A ⊠
第92図 4	須恵器:高坏	推定底径:10.0	密	良好	外面:灰色 内面:灰色	脚部内外面共に回転ナデ。	9 − A⊠
第92図 5	須恵器: 醸		密で 1 mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	体部内外面共に回転ナデ。外面に2条の沈線を施 し、円孔を穿つ。	9 – A 🗵
第92図6	須恵器:高坏		審で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:黄緑色 内面:灰色	脚部内外面共に回転ナデ。	9 – A 🗵
第92図7	須恵器:高坏	推定底径:11.6	密	良好	外面:黄緑色 内面:青灰色	脚部内外面共に回転ナデ。脚部外面に三角形状の 透かし3方向にあり。	9 — A ⊠
第92図8	土師器: 低脚坏	推定底径:7.4	密で3㎜程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色	摩滅が著しく調整は不明。赤色顔料付着。	9 – A⊠
第92図9	土師器:高坏	推定底径:8.8	やや粗く2mm程度の砂粒 を多量に含む。	良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色	摩滅が著しく調整は不明。	9 – A⊠
第92図10	須恵器:高坏	推定口径:14.8 器 高:11.3	密	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外面共に回転ナデ。坏部内面は多方向ナデ。	9 – A 🗵
第93図 1	弥生式土器: 甕	推定口径:15.8	密で2mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色	内外面共ヨコナデ。顕部内面ヘラケズリ。	9 – A ⊠
第93図 2	土師器: 董	推定口径:14.2	密で1㎜程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:明褐色 内面:明褐色	内外面共ヨコナデ。	9 – A ⊠
第93図3	土師器:臺	推定口径:14.2	密で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色	内外面共ヨコナデ。	9 – A ⊠
第93図 4	上師器: 喪	推定口径:16.0	密で2㎜程度の白色砂粒 を多量含む。	良好	外面:黒褐色 内面:暗褐色	内外面共ヨコナデ。頭部内面ヘラケズリ。	9 – A⊠
第93図 5	土師器: 蹇	推定口径:13.4	密で2㎜程度の白色砂粒 を多量含む。	良好	外面:灰褐色 内面:明褐色	内外面共ヨコナデ。顕部内面ヘラケズリ。	9 – A ⊠
第93図 6	須恵器: 軣	推定口径:21.8	審で1 mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:黄緑色 内面:黄緑色	内外面共回転ナデ。	9 – A⊠
第93図 7	須恵器:坏蓋	推定口径:12.0 器 高:4.0	寄で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	.良好	外面:灰色 内面:淡青灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。天井部外面は回転へ ラケズリ。	9 – A⊠
第93図8	須恵器;坏蓋	推定口径:13.5 器 高:3.8	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部内外面共に回転ナア。天井部外面は回転へ ラケズリ。	9 – A⊠
第93図 9	須恵器:坏蓋	推定口径:14.2 器 高:3.3	密で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。天井部外面は回転へ ラケズリ後回転ナデ。	9 – A ⊠
第93図10	須惠器: 坏蓋	推定口径:14.1 器 高:3.2	密で2 m程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。天井部外面は回転へ ラケズリ後回転ナデ。	9 – A⊠
第93図11	須恵器: 坏身	推定口径:11.5 推定受部径:13.7 器 高:3.2	層で2 m程度の白色砂粒 を多量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面は回転ヘラ ケズリ後回転ナデ。	9 – A⊠
第93図12	須恵器:坏身	推定口径:10.2 器 高:3.8	密で2 m程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面はヘラ切り後 ナデ。	9 – A⊠
第93図13	須恵器:坏身	推定口径:11.8 高:3.8	密で1㎜程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面はヘラ切り後 ナデ。	9 – A 🗵
第93図14	須恵器:坏身	推定口径:12.0 高:4.5	審で1 m程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面はヘラ切り後 ナデ。	9 – A ⊠
第93図15	須恵器:坏身	推定口径:12.6 高:3.6	密で2 mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面はヘラ切り後 ナデ。	9 – A 🗵
第93図16	須惠器:坏身	推定口径:13.6 器 高:4.5	密で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	やや不良	外面:灰色 内面:灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面はヘラ切り後 ナデ。	9 – A ⊠

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手 法 調 整 の 特 徴	出土地点
第93図17	須恵器;坏身	推定口径:15.6 器 高:4.5	密で2mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面はヘラ切り後 ナデ。	9 – A 区
第93図18	須恵器:高台付坏	推定口径:13.4 推定底径:8.6 器 高:4.7	密で3㎜程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面は回転ヘラ 切り後回転ナデ。	9 – A 🗵
第93図19	須恵器:盤	推定口径:20.6 推定底径:11.2 器 高:3.6	審で1㎜程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面は回転糸切り後回転ナデ。	9 – A 🗵

### 平成3年度9一D区出土遺物観察表

			1 12 5 - 12 5			****	
挿図番号	器 種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点
第96図 1	土師器: 瓷	推定口径:12.4	やや粗く0.5~1 m程度 の白色砂粒を多量含む。	良好	外面:淡灰褐色 内面:淡灰褐色	摩滅が著しく調整は不明。	9 — D ⊠
第96図 2	陶磁器:畫			良好	外面:白色 内面:白色		9 - D⊠
第96図 3	須惠器:坏身	推定口径:11.6 推定受部径:13.9 器 高:5.5	審で 4 mm程度の白色砂粒 を少量含む。	真好	外面:青灰色 内面:青灰色	口機部内外面共に回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ。	9 - D 🗵
第96図 4	須惠器:坏身	推定口径:10.8 推定受部径:13.6 器 高:4.1	審で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	臭好	外面:青灰色 内面:青灰色	口縁	9 − D⊠
第96図 5	須恵器: 庭		密で 1 mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	外面は回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ。	9 - D⊠
第96図 6	土師質土器:坏	推定底径:6.4	寄で0.1m程度の白色砂 粒を少量含む。	良好	外面: 明赤褐色 内面: 明赤褐色	底部外面に回転差切り痕あり。	9 − D 🗵
第96図 7	土師質土器:坏	推定底径:7.2	審で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面: 明褐色 内面: 明褐色	底部外面に回転糸切り痕あり。	9 - D 🗵
第96図8	土師質土器:坏	推定底:6.4	審で2mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:淡橙色 内面:淡橙色	底部外面に回転糸切り痕あり。	9 - D区
第96図 9	須恵器: 坏身	推定口径:11.6 器 高:4.3	粗く0.5~2 m程度の白 色砂粒を多量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面に回転糸切り 痕あり。	9 - D区
第96図10	須惠器:坏身	推定口径:11.8 推定底径:6.4 器 高:4.0	密で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕あり。	9 - D区
第96図11	須恵器: 坏身	推定口径:11.8 推定底径:7.2 器 高:4.2	密で2m程度の白色砂粒 を少量含む。	不良	外面:赤褐色 内面:赤褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部外面に回転糸切り痕あり。	9 - D 🗵
第96図12	陶磁器:白磁皿	推定口径:11.8 推定底径:3.9 器 高:3.3	密	良好	外面:灰白色 内面:灰白色	薄い種をかける。	9 - DIZ
第96図13	土師器:椀	推定口径:15.0 推定底径:7.6 器 高:6.6	やや粗く0.5~2 m程度 の白色砂粒を多量含む。	良好	外面:淡橙色 内面:淡橙色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部内外面は調整不明。	9-D区
第96図14	土師器: 低脚坏	推定底径:7.8	やや粗く1mm程度の白色 砂粒を多量に含む。	良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色	摩滅が著しく調整は不明。赤色顔料付着。	9 - D 🗵
第96図15	土師器: 低脚坏	推定底径:7.2	審で1mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面: 明褐色 内面: 明褐色	摩滅が著しく調整は不明。	9-D区
第96図16	須恵器:有蓋高坏	推定口径:10.6 推定受部径:13.8	密で1㎜程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:灰色	内外面共に回転ナデ。坏部内面は多方向ナデ。	9 - D 🗵
第96図17	須惠器: 高坏	推定底径:7.8	密で2㎜程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:濃青灰色 内面:青灰色	内外面共に回転ナデ。坏部内面は多方向ナデ。	9 − D区

### 平成 4 年度出土遺物観察表

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎士	焼成	色 調	手法・調整の特額	出土地点
第106図1	土師器:土錘	全 長:3.2	やや粗く、2~4 mmの白 色砂粒を多く含む。	良好	外面:灰褐色 内面:灰褐色	3 194 197 335 57 17 195	T-19 SD-01
第106図2	土師器:土錘	全 長:4.2	密	良好	外面:黑灰色 内面:读灰色		T-16
第106図3	類惠器:土鍾	全 長:4.3	審で0.5mm程度の白色砂 粒を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色		T-11
第107図1	類恵器: 坏鲞	推定口径:12.8 器 高:4.1	審で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:淡青灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。天井部外面は回転へ ラケズリ。	H-3
第107図2	須恵器: 坏蓋	推定口径:14.8 器 高:2.8	やや粗く、1mm程度の白 色砂粒を多く含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。天井部外面は回転へ ラケズリ後ナデ。	14工ET-2 拡張区
第107図3	類恵器: 坏身	推定口径:13.8 器 高:3.9	やや和く、1mm程度の白 色砂粒を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。底部外面は回転ヘラ ケズリ。	F-10区
第107図4	須恵器: 坏身	推定口径:11.2 器 高:3.9	密で 1 mm程度の白色砂色 砂粒を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ。	D-8⊠
第107図 5	須惠器: 坏身	推定口径:13.4 器 高:3.5	やや粗く、1 mm程度の白 色砂粒を多量に含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。底部外面は回転ヘラ ケズリ。	E-11⊠
第107図6	土師器:高坏	推定口径:15.6	密	良好	外面:茶橙色 内面:茶橙色	内外面共丹塗り。	E −12⊠
第107図7	土師器: 高坏	推定口径:17.2	密で 1 mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:茶色 内面:茶色	内外面共丹塗り。	I − 2 区
第107図8	須恵器: 短頸壷	推定口径:9.4	密で 1 m程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外面共回転ナデ。	H − 5 区
第107図 9	須恵器: 脇		密で 1 m程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	体電は内外面共回転ナデ。底部外面は回転ナデ。体 部外面に2条の沈線。	H − 3 ⊠
第107図10	土師質土器:高台付坏	推定底径:8.4	密で 1 m程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:茶色 内面:茶色	内外面共回転ナデ。	T − 2 拡張 区
第107図11	土師器:無高台不	推定底径:5.4	密	やや不良	外面:橙色 内面:橙色	外面に丹塗り。	E −12⊠
第107図12	須恵器:高台付輩	推定底径:7.4	粗く、0.5~2 mm程度の 白色砂粒を多量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	外面底部に糸切り痕。	C-11⊠
第107図13	須恵器: 高坏	推定底径:7.6	密で3 m程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	脚部に三角形状の透かし3方向にあり。	C −11⊠
第107図14	須恵器:高坏	推定口径:15.2 推定底径:10.2 器 高:9.7	やや粗く、1 mm程度の白 色砂粒を多く含む。	やや不良	外面:灰色 内面:灰色	内外面共回転ナデ。坏部内面は多方向ナデ。	D-8⊠
導107図15	須惠器: 高坏	推定口径:14.9 推定底径:10.1 器 高:10.1	やや粗く、1 m程度の白 色砂粒を多く含む。	やや不良	外面:淡青灰色 内面:淡青灰色	胸部に三角形状の透かし2方向にあり。	E-11⊠

#### 平成5年度出土遺物観察表

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色調	手 法 ・ 調 整 の 特 徴	出土地点
第111図 1	土師器:甕	推定口径:14.0	粗く0.5mm程度の砂粒を 多量に含む。	やや不良	外面:淡橙色 内面:橙褐色	内外面共にヨコナデ。	13工区 T-8
第111図 2	弥生式土器:臺	推定口径:14.4	やや粗く、1 m程度の砂 粒を多量に含む。	やや不良	外面:橙白色 内面:橙白色	外面に櫛状工具で平行沈線文を施した後ナデ。内 面はヨコナデ及びヘラケズリ。	8 工区 T-10
第111図 3	弥生式土器: 壺	推定□径:12.4	粗く、1 mm程度の砂粒を 多量に含む。	やや不良	外面:橙褐色 内面:橙褐色	摩滅のため調整は不明。端部外面に浅い沈線1条あり。	13⊥⊠ T − 12
第111図 4	弥生式土器: 寷	推定口径:20.8	粗く1 mm程度の砂粒を含む。	不良	外面:茶褐色 内面:茶褐色	外面に横状工具で沈線文を施した後、ナデ。ヨコナ デ及びヘラケズリ。	13工区 T - 5
第111図 5	土師器:薨	推定口径:19.2	粗く2 mm程度の砂粒を多量に含む。	良好	外面: 橙灰色 内面: 橙灰色	内外面共にヨコナデ。	13工区 T-8
第111図 6	土師器:臺		粗く 1 mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	不良	外面:橙褐色 内面:橙褐色	内外面共にヨコナデ。外面に赤色顔料が付着。	8 工区 T-10
第111図 7	土師器: 甕		粗く2mm程度の砂粒を多量に含む。	不良	外面: 茶褐色 内面: 茶褐色	外面ヨコナデ及びハケメ。内面はヨコナデ及びヘラ ケズリ。	13⊥⊠ T − 12
第111図 8	土師器:壺		粗く2mm程度の砂粒を多量に含む。	不良	外面:赤茶色 内面:茶色	外面ヨコナデ。内面はヨコナデ及びヘラケズリ。	T-17
第111図 9	土師器:短頭壺	推定口径:8.5	密で0.5mm程度の砂粒を 多量に含む。	不良	外面:橙白色 内面:橙白色	外面は摩滅のため調整は不明。内面はヘラケズリ。	13工区 T-18
第111図10	土師器:把手		粗く1mm程度の砂粒を多量に含む。	不良	外面:橙色 内面:橙色		13工区 T - 5
第111図11	須恵器: 坏身	推定受部径:13.2	審で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外而共回転ナデ。	8 ⊥⊠ T − 3
第111図12	須恵器: 坏身		密で0.5mm程度の白色砂 粒を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外面共回転ナデ。	8 工区 T - 5
第111図13	土師質土器:坏	推定底径:5.8	密で2 m程度の砂粒を含む。	良	外面:茶色 内面:橙色	外面底部に糸切り痕。	8 工区 T - 5
第111図14	土師質土器:坏	推定底径:7.3	密で1mm程度の砂粒を少量含む。	良	外面:茶色 内面:橙色	外面底部に糸切り痕。	13工区 T-5
第111図15	土 師質土器: 脚部	推定底径:6.4	粗く1 mm程度の砂粒を多量に含む。	不良	外面:赤茶色 内面:赤茶色	摩滅のため調整は不明。	13工区 T-5
第111図16	土師器:高坏		密で1mm程度の砂粒を少量含む。	良好	外面:茶色 内面:茶色	摩滅のため調整は不明。	T-17
第111図17	須恵器:高坏		密で0.5mm程度の砂粒を 少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	内外面共に回転ナデ。	8 工区 T - 5
第111図18	須恵器:高坏		審で2㎜程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外面共に回転ナデ。2方向に透かしあり。	T-6
第111図19	上師器:高坏	推定底径:9.6	密で1mm程度の砂粒を多量に含む。	良好	外面:赤茶色 内面:赤茶色	摩滅のため調整は不明。	13工区 T-18
第111図20	須恵器:坏	推定底径:8.3	密で1mm程度の砂粒を多量に含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	体部外面は回転ナデ、底部は回転糸切り。内面は斜めナデ。	13工区 T-10
第111図21	土師器:高坏	推定底径:12.8	審で1mm程度の砂粒を含む。	良好	外面:茶色 内面:茶色	摩滅のため調整は不明。	13工区 T-12
第111図22	土師器:坏	推定口径:14.0	審で1m程度の白色砂粒 を多量に含む。	不良	外面:茶色 内面:暗茶色	摩滅のため凋整は不明。	13工区 T-12
第111図23	土師器:低脚坏	推定底径:8.6	密で 1 mm程度の珍粒多量 に含む。	良好	外面:赤茶色 内面:赤茶色	摩滅のため調整は不明。	13工区 T-12
第111図24	須恵器:盤	推定底径:15.3	密で1m程度の砂粒を含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	外面は回転ナデ。内面は平行ナデ。	13工区 T — 5
第111図25	陶磁器:皿	推定底径:6.6	密で 1 mm程度の砂粒を少量含む。	良好	外面:緑色 内面:暗茶色	外面に浅い1条の沈線あり。	13工区 T-1
第111図26	<b>答</b>	全 長:22.6				鶴の彫念が施されている。	13工区 T-11
第111図27	土師器:鉢?		密で1m程度の砂粒を含む。	良好	外面:茶色 内面:茶色	外面は叩き目。内面はカキメ及び叩き目。	13工区 T-12

### 平成6年度出土遺物観察表

			1 残 0 干皮	H-L	さ 1の 正ルカマンへ		
挿図番号	器種	法量 (cm)	胎土	焼 成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点
第113図 1	弥生式土器: 壷	推定□径:10.6	やや頼く、2 m程度の白 色砂粒を含む。	良好	外面:茶褐色 内面:茶褐色	<b>筆滅のため</b> 順整は不明。	T - 9
第113図 2	土師器; 壺	推定□径:16.3	やや粗く、1 m程度の白 色砂粒を含む。	良好	外面:茶褐色 内面:茶褐色	内外面共ヨコナデナデ。	T-40
第113図3	須惠器;坏蓋		密で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	天井部は外面回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ及び 静止ナデ。	T-12
第113図 4	須恵器;坏身	推定受部径:14.0	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰黑色 内面:灰色	内外面共に回転ナデ。	T-12
第113図 5	須恵器:坏身	推定口径:12.1	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	<b>搴滅のため調整は不明。</b>	T-12
第113図 6	須恵器;坏身	推定口径:11.0 推定受部径:13.4 器 高:3.3	密で1 m程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外面共回転ナデ。底部は摩滅のため調整は不明。	T -33
第113図 7	須恵器: 坏身	推定口径:13.0 推定受部径:15.5 器 高:3.3	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外面共回転ナデ。底部は摩滅のため調整は不明。	T -33
第113図 8	須恵器:鹽		密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	内外面共に回転ナデ。	T-11
第113図 9	土師器: 麂		密で1 mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:橙色 内面:明茶色	内外面共ヨコナデ。	T - 1
<b>第113図10</b>	陶磁器: 間鉢		密で1 mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:茶褐色 内面:茶褐色	丸面に9条の条痕あり。	T-25
第113図11	土師器:高坏		密で2 mm程度の白色砂粒を含む。	良好.	外面:明橙色 内面:明橙色	外面に一部赤色顔料あり。内面はハケメあり。	T-40
奪113図12	須恵器:高坏		密で1 mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:青灰色	内外面共回転ナデ。胸部に三角形状の透かしを2方 向に持つ。	T - 7
奪113図13	土師器: 高坏		密で2m程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:黄色 内面:黄色	摩滅のため調整は不明。	T - 7
奪113図14	土師器:高坏		密で2mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	<b>豪滅のため調整は不明。</b>	T-12
彰113図15	須恵器:坏身		密で1 mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰白色	内外面共に回転ナデ。	T-11
彰113図16	須恵器: 坏身		密で1 mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰白色. 内面:灰白色.	内外面共に回転ナデ。	T-11
亥113図17	上無器:低脚坏	推定底径:8.8	密で2 m程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:明橙色. 内面:明橙色.	意識のため画略は不明。	T-25

挿図番号 器 種	法量 (cm)	胎土	焼 成	色 調	手 法 ・ 調 整 の 特 徴	出土地点
第113図18 土師器:高坏	推定底径:10.4	密で2mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:明茶色 内面:明茶色	摩滅のため調整は不明。 あり。	T-40
第113図19 土師器:高坏	推定底径:11.0	密で2mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:淡黄色 内面:淡黄色	外面は摩滅のため調整は不明。内面はしばり痕、横 方向のケズリの痕跡あり。	T-40
第113図20 土師器: 蹇		密で2mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:黄褐色 内面:黄褐色	摩滅のため調整は不明。	T - 2
第113図21 土師器:齏		密で2mm程度の白色砂粒を含む。	良	外面:赤桃色 内面:赤桃色	摩滅のため調整は不明。	T-12
第113図22 土師器:把手		密で2㎜程度の白色砂粒を含む。	良	外面:淡黄色 内面:淡黄色	摩滅のため調整は不明。	T-12
第113図23 土師器:把手		密で2mm程度の白色砂粒 を含む。	良	外面:黄色 内面:黄色	摩滅のため調整は不明。	T - 7
第113図24 土師器:小型短頭壺	推定口径:6.8	密で2mm程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面:茶色 内面:茶色	外面はヨコナデ、ナナメ方向のタタキ。内面はヘ ラケズリ。	T-40
第113図25 土師器:小型短頭壷	推定口径:6.5 器 高:16.3	審で2mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:赤茶色 内面:赤茶色	口縁部は内外面共ヨコナデ。体部は外面ハケメ。内 面はヘラケズリ、指頭圧痕あり。	T - 9
第113図26 土師質土器:底部	推定底径:11.0	密で2mm程度の白色砂粒を含む。	良	外面:黄色 内面:黄色	摩滅のため調整は不明。	T-36

### 平成7年度出土遺物観察表

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点
<b>第115図 1</b>	土師器: 斃		蜜で0.5mm程度の砂粒を 少量含む。	不良	外面:赤茶色 内面:赤茶色	摩滅が著しく調整は不明。	T - 1 ②
第115図 2	土師器: 甕		粗く0.5mm程度の砂粒を 少量含む。	不良	外面:橙褐色 内面:橙褐色	摩滅が著しく調整は不明。	T-12
第115図 3	土師器:喪		密で2mm程度の砂粒を含む。	不良	外面:橙白色 内面:橙白色	外面は摩滅のため調整は不明。内面は肩部に指頭 圧痕が僅かに確認される。	T-12
第115図 4	土師器:高坏		密で1mm程度の砂粒を含む。	良好	外面:橙色 内面:橙色	摩滅のため調整は不明。	T - 1 @
第115図 5	土魳器:高坏		密で0.5mm程度の砂粒を 少量含む。	良好	外面:赤茶色 内面:赤茶色	外面は回転ナデ。底部外面は回転ヘラケズリ。	T-12
第115図 6	陶磁器: 擅鉢	推定底径:6.4	粗く1mm程度の砂粒を含む。	不良	外面:茶褐色 内面: 灰褐色	底部外面に回転糸切り痕あり。	T-15
第115図 7	須恵器:平瓶?	推定底径:7.2	密で0.5mm程度の砂粒を 含む。	不良	外面:青褐色 内面:青褐色	底部外面に回転糸切り痕あり。	T-32
第115図8	土師器: 奥	推定口径:18.2	密で2m程度の砂粒を含む。	良好	外面:赤茶色 内面:赤茶色	摩滅のため調整は不明。	T-33

## 平成8年度前期調査出土遺物観察表

挿図番号	器種	法量 (cm)	胎土	焼 成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点
第119図 1	須惠器:坏蓋	推定口径:12.1 器 高:3.7	寄で1mm程度の白色砂粒 を多く含む。	良好	外面:暗灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共回転ナデ。天井部外面は回転へ ラケズリ。	第1調査区
第119図 2	須恵器: 坏身	推定口径:10.5 器 高:4.2	審で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共回転ナデ。底部外面は回転ヘラ ケズリ。	第1調查区
第119図3	須恵器: 坏身	推定口径:12.4 器 高:4.2	審で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共回転ナデ。底部外面は回転ヘラ ケズリ。	第1調査区
第119図4	須惠器: 高坏	底 径:11.0	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	外面は回転ナデ。内面は回転ナデ及び一部静止ナ デ。	第1調査区
第119図 5	須恵器:廰		寄で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	体部外面は回転ナデ。底部は回転ヘラケズリ。内 面は回転ナデ。	第1調查区
第119図 6	土師器:高坏	推定口径:12.4 推定底径:9.0 器 高:10.6	密で 1 mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:淡茶褐色 内面:淡茶褐色	調整は摩滅のため不詳。	第1調查区
第119図 7	土師質土器:皿	推定底径:6.2	密で 1 mm程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面: 橙褐色 内面: 橙褐色	内外面共ナデ。	第1調査区
第119図 8	土師質土器:坏	推定底径:4.4	審で1mm程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面: 橙褐色 内面: 橙褐色	底部に回転糸切り痕あり。	第1調查区
第122図 1	須恵器:高坏	推定口径:12.2	審で1mm程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面:灰白色 内面:灰白色	口縁部は内外面共回転ナデ。	第2調查区
第122図 2	須恵器:壺	推定口径:12.0	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰褐色 内面:灰色	口縁部は内外面共回転ナデ。	第2調查区
第122図3	須恵器: 坏蓋		密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	天井部は外面回転ヘラケズリ。内面は回転ナデ。	第2調査区
第122図 4	土師質土器:坏	推定底径:6.6	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:暗褐色 内面:暗褐色	底部に回転糸切り痕あり。	第2調查区
第122図 5	土師器: 低脚坏	推定底径:7.2	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:淡橙色 内面:淡橙色	調整は摩滅のため不詳。	第2調査区
第122図 6	土師器:高坏	進定底径:8.8	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:淡橙色 内面:淡橙色	調整は摩滅のため不詳。	第2調査区
第122図 7	土師器:碗	推定口径:12.8	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面: 橙褐色 内面: 橙褐色	調整は摩滅のため不詳。	第2調査区
第122図8	土師器:高坏	推定底径:10.0	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:橙褐色 内面:橙褐色	調整は摩滅のため不詳。	第2調查区
第122図 9	土師器:高坏	推定底径:8.2	審で1mm程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面:淡茶褐色 内面:淡茶褐色	調整は摩滅のため不詳。	第2調査区
第122図10	土師器;軣	推定口径:25.0	密で1mm程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面: 黄褐色 内面: 黄褐色	調整は摩滅のため不詳。	第2調查区
第122図11	土師器:鉢		密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:黃褐色 内面:黃褐色	調整は摩滅のため不詳。	第2調査区

## 平成8年度後期調査出土遺物観察表

			1 // - 1 /2 /2///				
挿図番号	器種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手 法 ・ 調 整 の 特 徴	出土地点
第136図 1	土師質土器: 皿	推定口径:8.5 推定底径:5.2 器 高:1.4	密で1mm程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:灰褐色 内面:灰褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕あり。	T-11
第136図 2	土師質土器:皿	推定口径:9.6 推定底径:5.1 器 高:1.5	密でⅠ㎜程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:淡褐色 内面:淡褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕あり。	T-11
第136図 3	土師質土器:皿	推定口径:8.8 推定底径:5.1 器 高:1.5	密で 1 mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕あり。	T-11

挿図番号	ng tia	種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点
第136図 4	土師質土器:	Ш	推定口径:8.7 推定底径:3.8 器 高:1.7	密で1m程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第136図 5	土師質土器:	ш	推定口径:9.0 推定底径:4.8 器 高:1.9	審で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第136図 6	土師質土器:	Ш	推定口径:9.4 推定底径:3.6 器 高:2.3	審で1mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:淡褐色 内面:淡褐色	山縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第136図7	土師質土器:	ш	推定口径:9.9 推定底径:4.2 器 高:2.0	密で 1 mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:淡橙褐色 内面:淡橙褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕あり。	T-11
第136図8	土師質土器:	ш	推定口径:9.5 推定底径:3.8 器 高:2.4	密で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:淡灰褐色 内面:淡灰褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕あり。	T-11
第136図9	土師質土器:	Ш	推定口径:8.9 推定底径:3.8 器 高:2.0	密で1 mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第136図10	土師質土器:	ш	推定口径:9.9 推定底径:4.3 器 高:1.8	器で1mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:灰褐色 内面:灰褐色	口縁離内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕あり。	T-11
第136図11	土師質土器:	ш	推定口径:8.6 推定底径:3.6 器 高:2.0	密で 1 mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:淡褐色 内面:淡褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第 36図12	土師質土器:	Ш	推定口径:8.5 推定底径:4.6 器 高:2.0	密で1mm程度の白色砂粒を含む。	良好	外面:淡褐色 内面:淡褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第.36図13	土師質土器:	Ш	推定口径:9.8 推定底径:4.6 器 高:2.7	密で 1 m程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:灰褐色 內面:灰褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第136図14	土師質土器:	ш	推定口径:9.3 推定底径:4.2 器 高:2.0	密で1㎜程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面: 褐色 内面: 黒褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第136図15	土師質土器:	Ш	推定口径:10.0 推定底径:4.3 器 高:3.0	密で1mm程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面:褐色 内面:黒褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕あり。	т-11
第136図16	上師質土器:	m	推定口径:10.0 推定底径:3.6 器 高:2.3	密で1mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良仔	外面:淡赤褐色 内面:淡赤褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕あり。	T-11
第136図17	土師質土器:	ш	推定口径:9.9 推定底径:3.6 器 高:2.3	審で1 m程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:淡赤褐色 内面:灰褐色	口線部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第136図18	上師質主器:	Ш	推定口径:9.5 推定底径:4.3 高:2.4	密で1mm程度の白色砂粒 を含む。	良好	外面: 淡灰褐色 内面: 淡灰褐色	口縁駕内外面共に回転ナデ。底部に凹転糸切り根 あり。	T-11
第136図19	土師賃土器:	ш	推定口径:9.6 推定底径:3.8 高:2.5	審で1㎜程度の白色砂粒 を少量含む。	.良好	外面:赤褐色 内面:赤褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕あり。	T-11
第136図20	土師質土器:	ш	推定口径:9.0 推定底径:4.8 高:2.5	密で1mm程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:赤褐色内面:赤褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第136図21	土師質土器:	ш	推定口径:9.0 推定底径:4.3 高:2.5	密で 1 m程度の白色砂粒 を少量含む。	良好	外面:淡灰褐色 内面:濕褐色	口縁部内外面共に回転ナデ。底部に回転糸切り痕 あり。	T-11
第137[四 1	鉄죟品:刀子	-?	最 大 長:18.8				2本が密着している。	T-11
第.37[图 2	鉄製品:刀子	· ?	最 大長:18.8				2本:が密差している。	T-11
第.37[図3	鉄製品:刀子	· ?	最大長:18.8				2本が密着している。	T-11

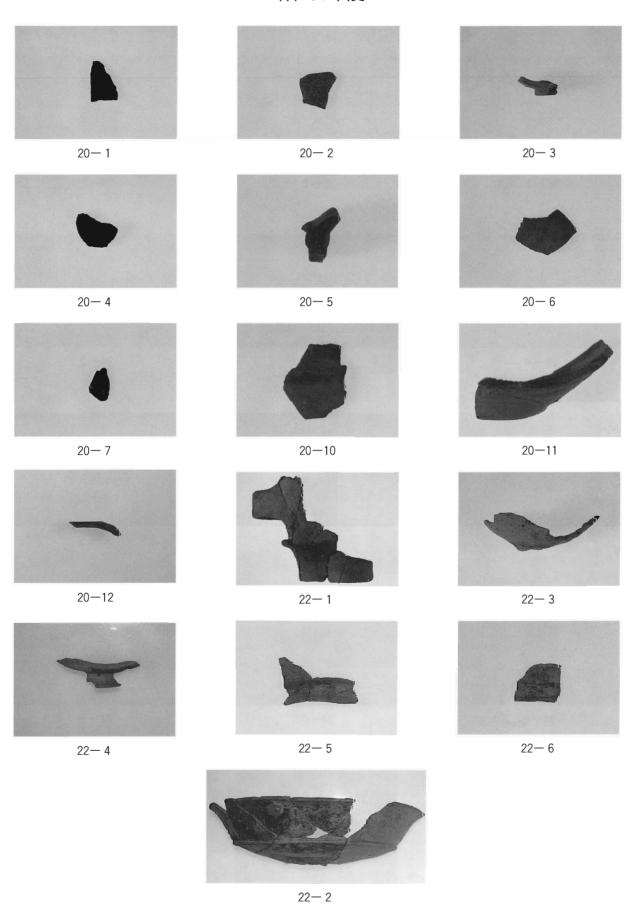
### 平成9年度出土遺物観察表

		1 // - 1 //		- 113 mon( > 1		
挿[図番号] 器 科	主 法量 (cm)	胎土	源 成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点
第139図1 石器:有舌尖頭器	强 存長:6.8					T-6
第141図1 土師質土器:高台	合付碗 推定庭径:7.3	審で0.5~3 m程度の白 色砂粒を含む。	良好	外面:淡橙色 内面:淡橙色	外面回転ナデ。内面ヨコナデ。	T - 9 S K -03
源141図 2 土師質上器:高台	分付碗 推定底径:5.4	審で0.5~3 m程度の白 色砂粒を含む。	良好	外面: 淡橙色 内面: 淡橙色	外面回転ナデ。内面ヨコナデ。	T-9 SK-03
第141図3 土師·賢土器:高台	计付碗 推定口径:15.3	客で1~2mm程度の白色 砂粒を含む。	良好	外面:淡橙色 内面:淡橙色	外面回転ナデ。内面ヨコナデ。底部外面はナデ。	T-9 SK-01
第141図4   土師質土器:高台	推定口径:16.4 推定底径:7.7 器 高:6.4	密で1~2 mm程度の白色 砂粒を含む。	良好	外面: 淡橙色 内面: 淡橙色	外面回転ナデ。内面ヨコナデ。底部外面はナデ。	T - 9 S K -01
第343回51土師質土器:高台	推定口径:16.4 推定底径:9.6 器 高:7.8	密で0.5~3 mm程度の白色砂粒を含む。	良好	内面:淡橙色 外面:淡橙色	外面回転ナデ。内面ヨコナデ。底部外面はナデ。	T - 9 S K -01

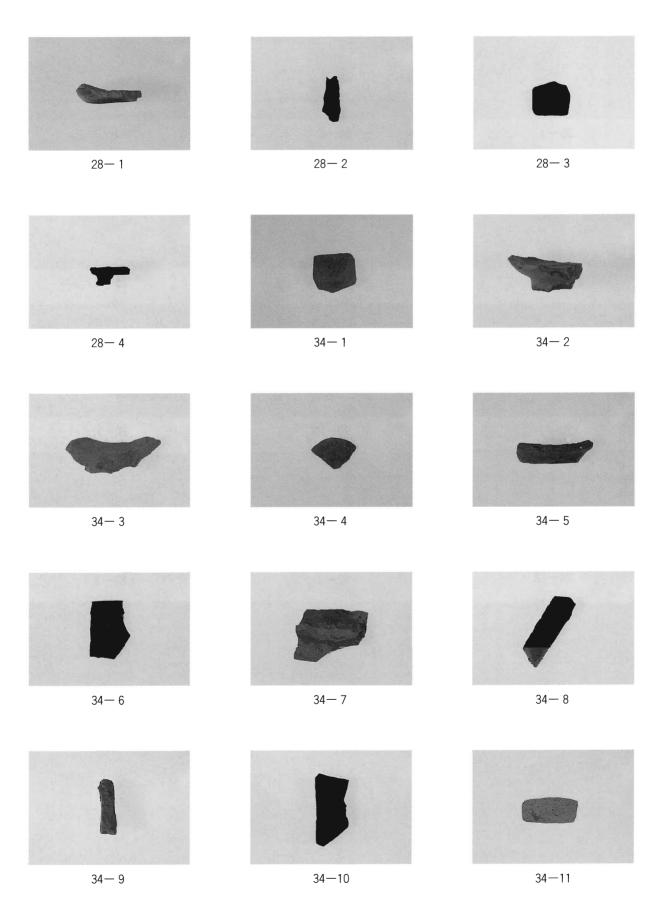
#### 梨子谷遺跡出土遺物観察表

	来了百息阶山工息彻既宗教								
挿図番号	器	種	法量 (cm)	胎 土	焼 成	色 調	手法・調整の特徴	出土地点	
第145図 1	須恵器:坏蓋		推定口径:13.6 器 高:4.2	審で1㎜程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:青灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。天井部外面は回転 ヘラケズリ。	14工区	
第145図 2	須恵器:坏蓋		推定口径:13.0	密で1m程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。	14工区	
第145図3	須惠器: 坏蓋		推定口径:10.0 器 高:3.4	密で1m程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:暗灰色	口隷部は内外面共に回転ナデ。天井部外面は回転 ヘラケズリ。	14工区	
第145図 4	須恵器: 坏身		口 径:9.8 受 部 径:12.0 器 高:3.4	密で1 m程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。底部外面は回転糸 切り痕あり。	14工区	
第145図 5	須恵器: 坏身		推定口径:9.6 推定受部径:11.8	密で1mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:暗青灰色 内面:青灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。	14工区	
第145図 6	須惠器: 坏身		口 径:8.0 推定受部径:10.0 器 高:3.2	密で1 mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:青灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。底部外面は回転糸 切り痕あり。	14工区	
第145図 7	須恵器:坏蓋		推定底径:6.6	密で1m程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:青灰色 内面:明橙色	口縁部は内外面共に回転ナデ。	14工区	
第145図 8	須恵器: 坏身		推定口径:11.8 器 高:4.0	密で1m程度の白色砂粒を少量含む。	良好	外面:暗灰色 内面:青灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。底部外面は回転へ ラケズリ。	14工区	
第145図 9	須恵器: 坏		口 径:13.8 底 径:10.0 器 高:5.0	密で1mm程度の白色砂粒 を多量に含む。	良好	外面:青灰色 内面:灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。	14工区	
第145図10	須恵器: 坏		推定口径:14.2 推定底径:9.6 器 高:4.4	密	良好	外面:青色 内面:青色	口縁部は内外面共に回転ナデ。内面底部に一部ナデ。	14工区	
第145図11	須恵器:高坏		推定口径:27.0	密	良好	外面: 黒灰色 内面: 灰色	口縁部は内外面共に回転ナデ。	14工区	
第145図12	須恵器: 壷		推定口径:12.2	密	良好	外面:青色 内面:茶褐色	摩滅のため調整は不明。頚部に2条の沈線あり。	14工区	
第145図13	須恵器:甕		推定口径:18.6	やや粗く3mm程度の白色 砂粒を含む。	良好	外面:暗褐色 内面:暗褐色	口縁部は内外面共に回転ナデ。	14工区	
第146図14	土師器: 甕		推定口径:28.2	密で1㎜程度の白色砂粒を含む。	良好	外面: 黑茶色 内面: 橙色	外面はヨコナデ。内面はヨコナデ及びヘラケズリ。	14工区	
第146図15	土師器: 売		推定口径:18.8	粗く、0.5m程度の白色 砂粒を多量に含む。	良	外面:茶色 内面:橙色	摩滅のため調整は不明。	14工区	
第146図16	土師質土器:	11	推定底径:4.8	密	良好	外面:明茶色 内面:明茶色	摩滅のため調整は不明。	14工区	
第146図17	土師器:高坏		推定底径:11.8	密	良好	外面:赤茶色 内面:赤茶色	摩滅のため調整は不明。	14工区	
第146図18	土師器:高坏		推定底径:9.2	卷	良好	外面:白橙色 内面:白橙色	<b>享滅のため調整は不明。</b>	14工区	
第146図19	土師器: 甑			粗く、1 mm程度の砂粒を 多量に含む。	良	外面:茶色 内面:濃茶色	外面はヨコナデ。内面はヘラケズリ。	14工区	
第146図20	土師器:把手			粗く、1 mm程度の砂粒を 多量に含む。	良	外面:茶色 内面:橙色	外面はナデ。内面はヘラミガキ。	14工区	
第146図21	砥石					外面: 橙褐色 内面: 橙褐色		T-12	

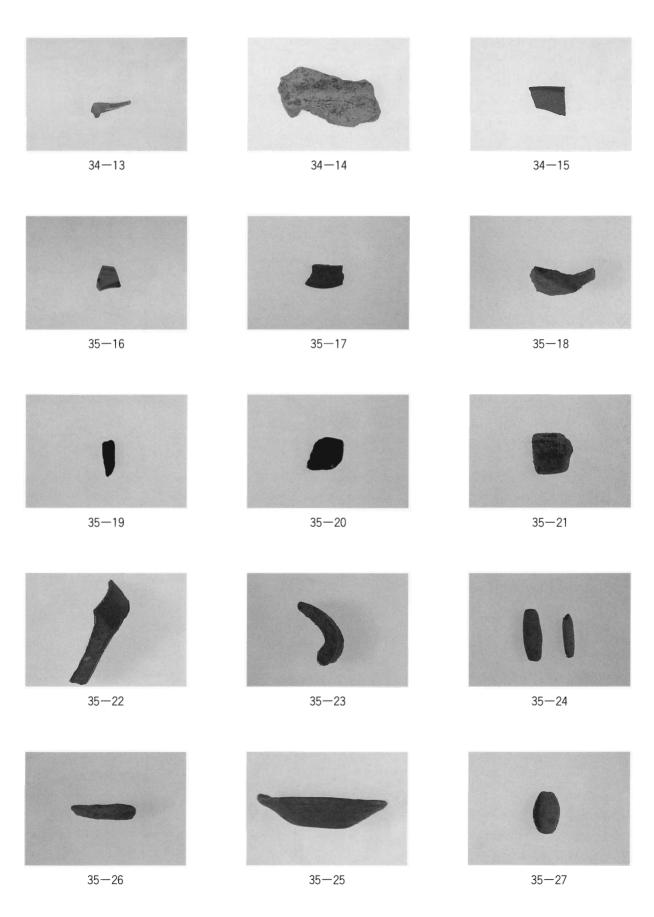
## 昭和61年度



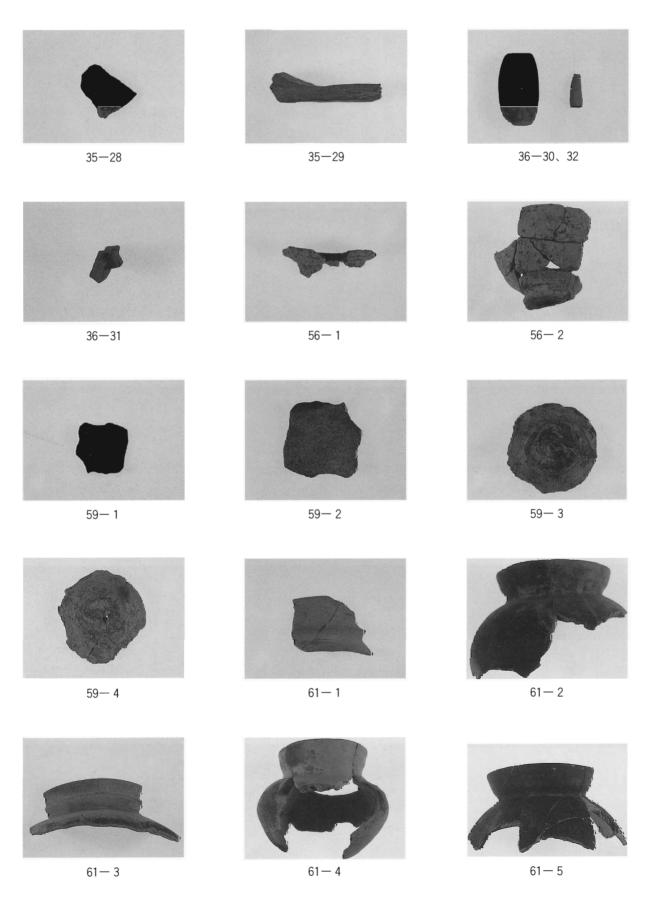
## 昭和62・63年度



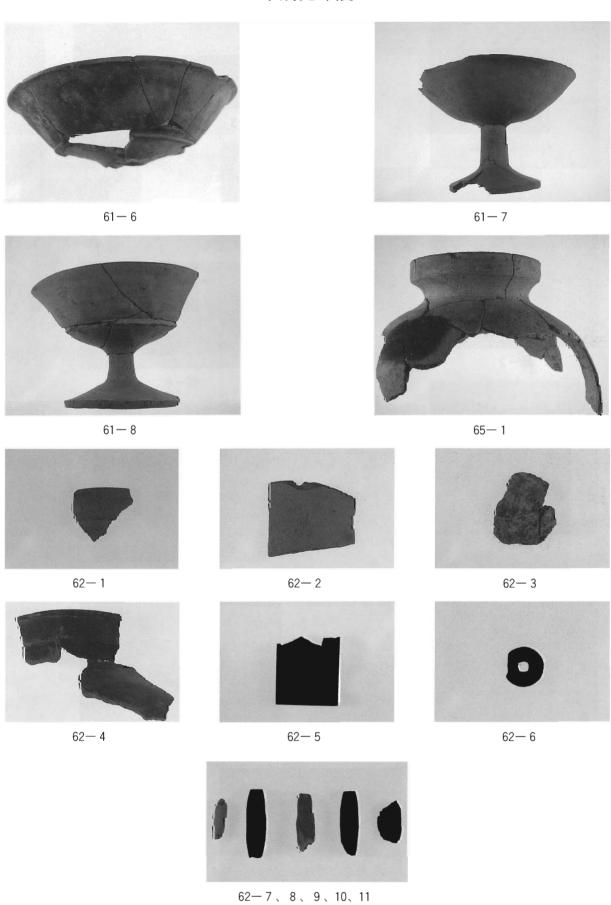
## 昭和63年度



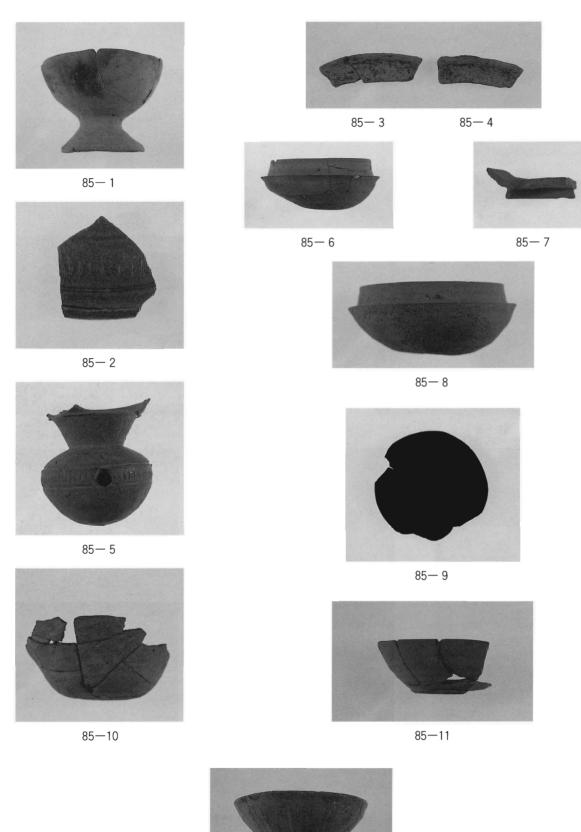
# 昭和63•平成元年度



# 平成元年度



# 平成2年度

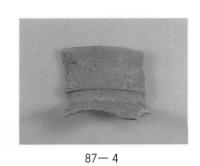


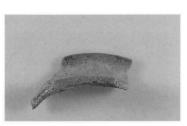
# 平成3年度

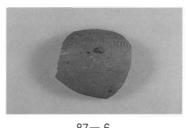
















87 — 5

87—6

87 — 7

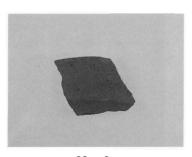
87—8

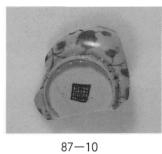










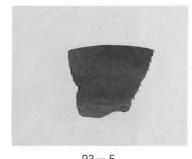


93-1

93-2



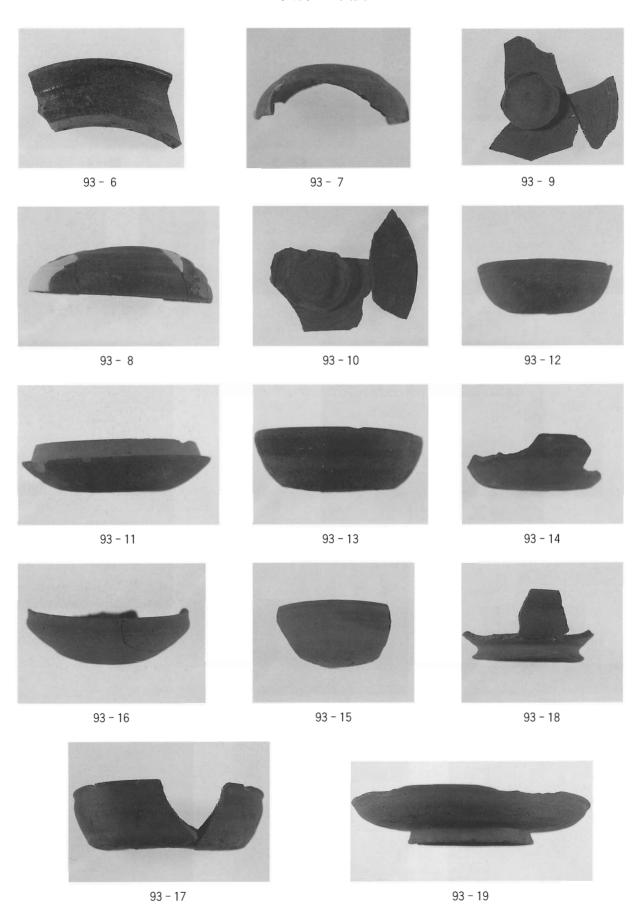




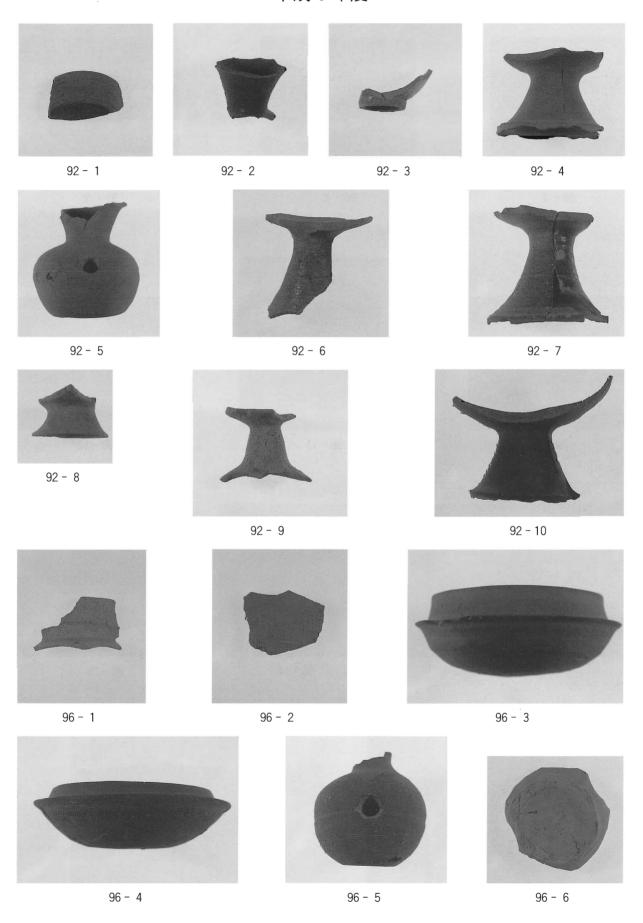
93 — 3

93 — 5

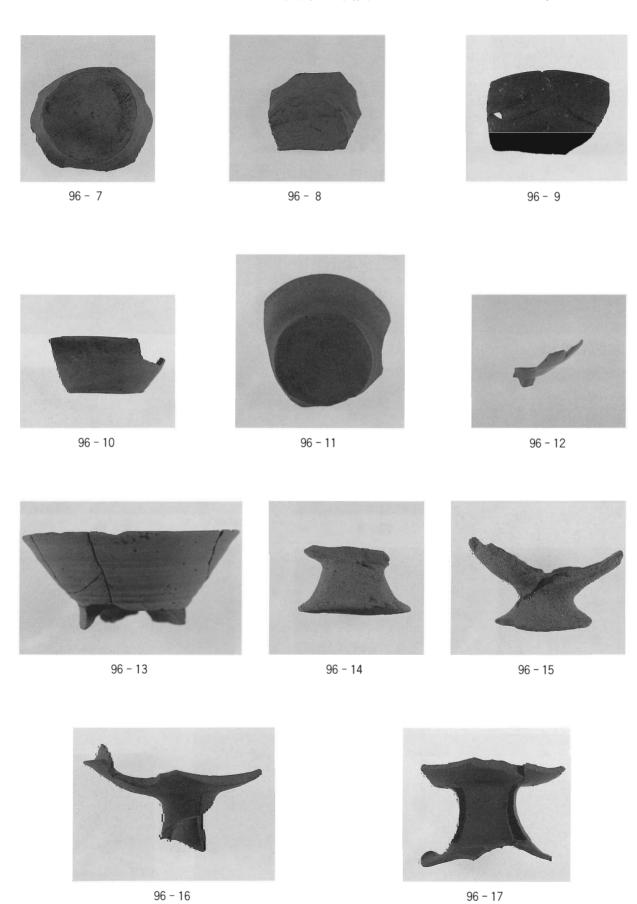
平成3年度



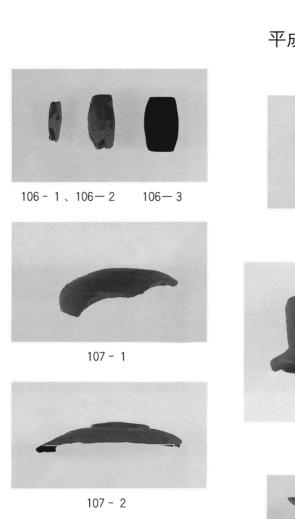
平成3年度

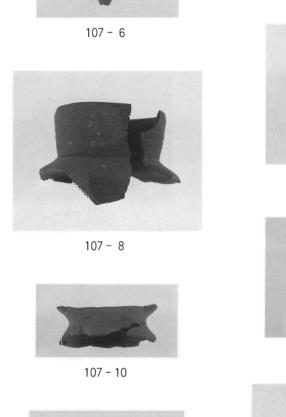


# 平成3年度

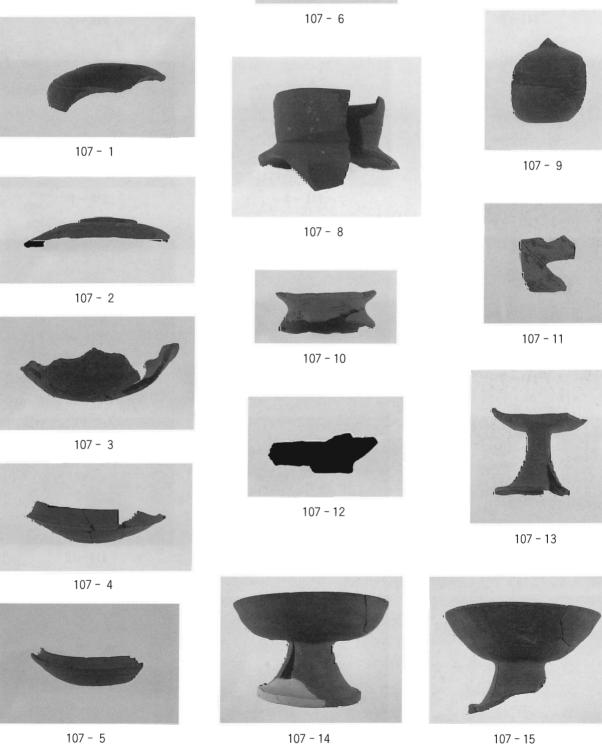


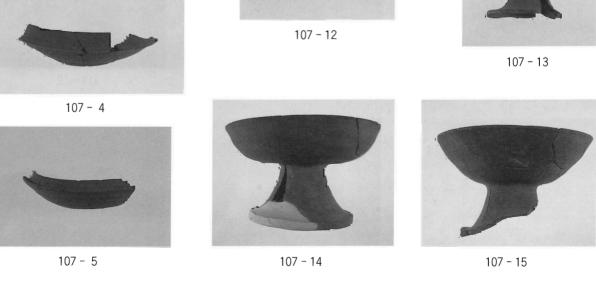
# 平成 4 年度



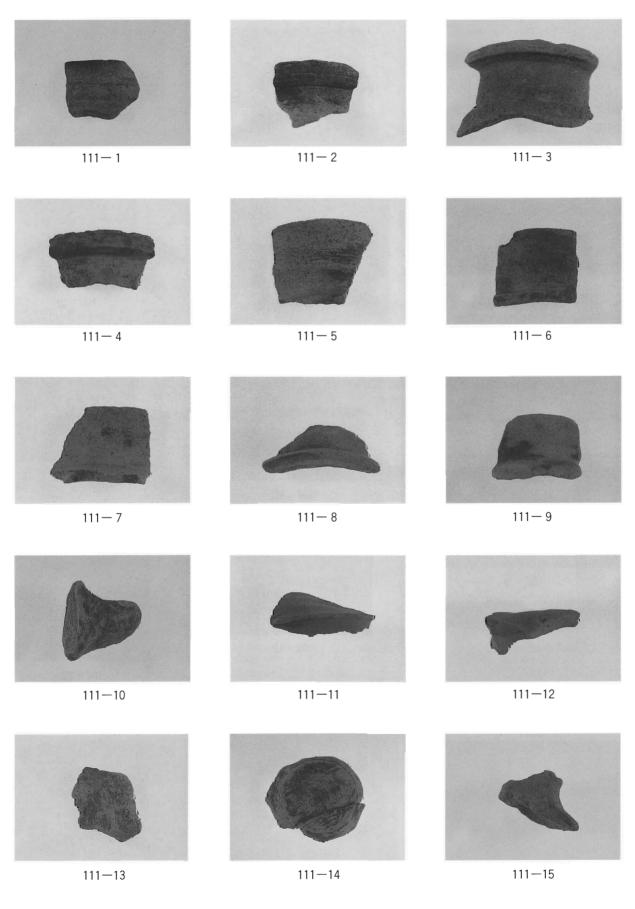


107 - 7

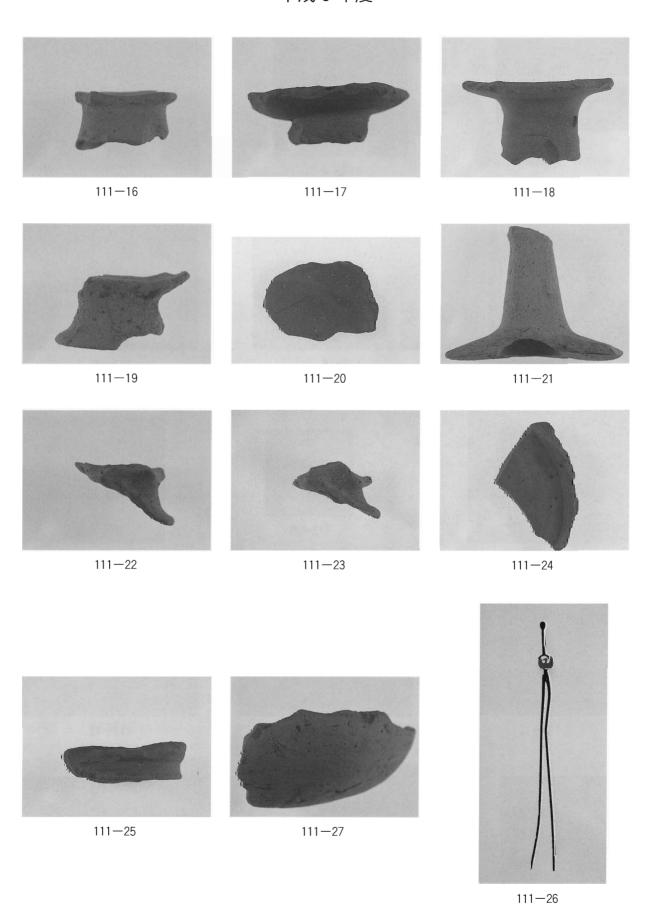




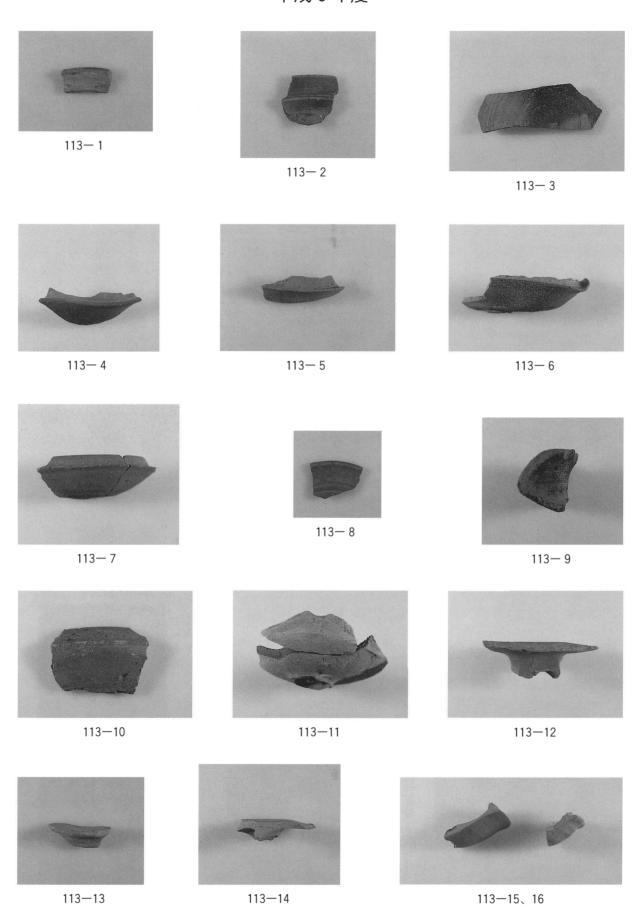
# 平成5年度



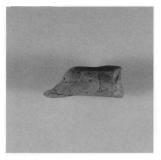
平成5年度



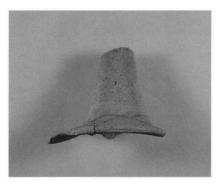
## 平成6年度



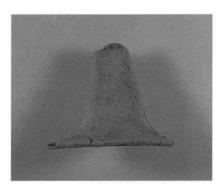
# 平成6年度



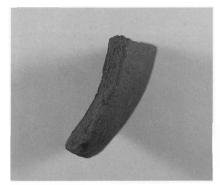




113 - 18



113 - 19



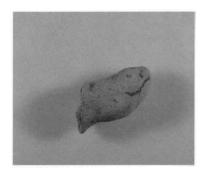
113-20



113 - 21



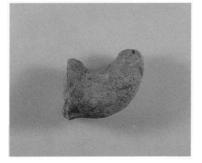
113-24



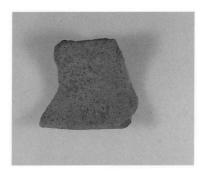
113-22



113-25

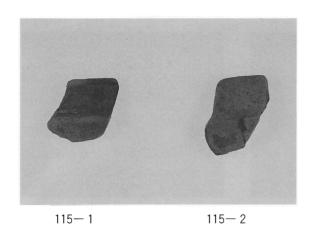


113-23



113-26

# 平成7年度

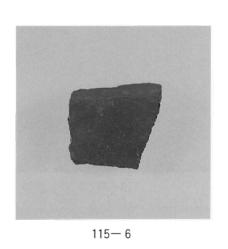


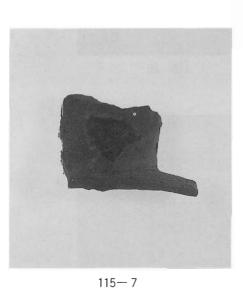


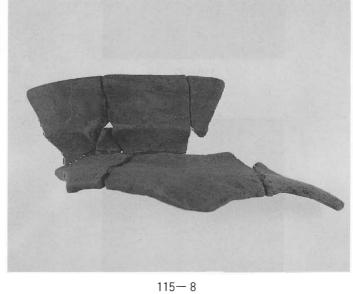


115-4

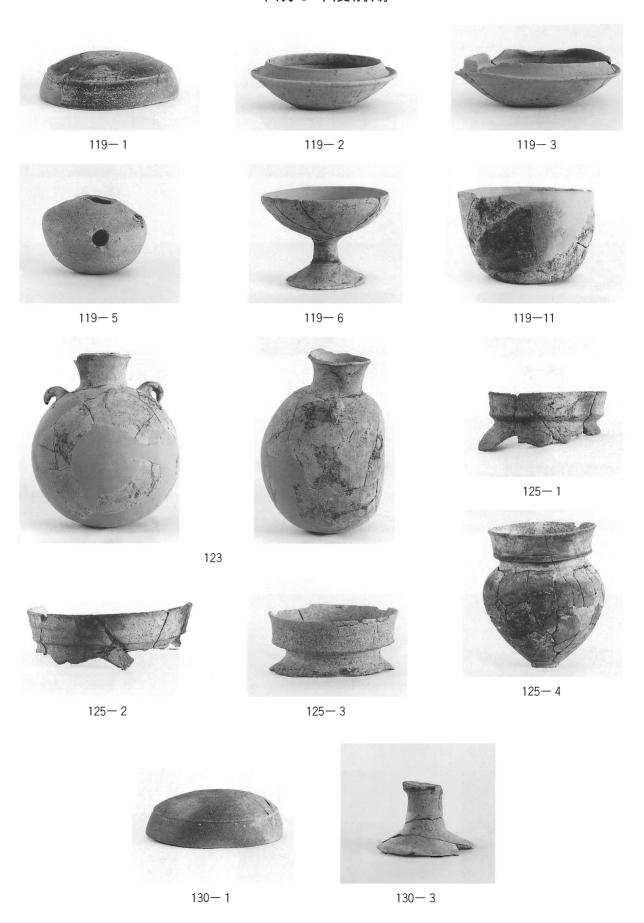




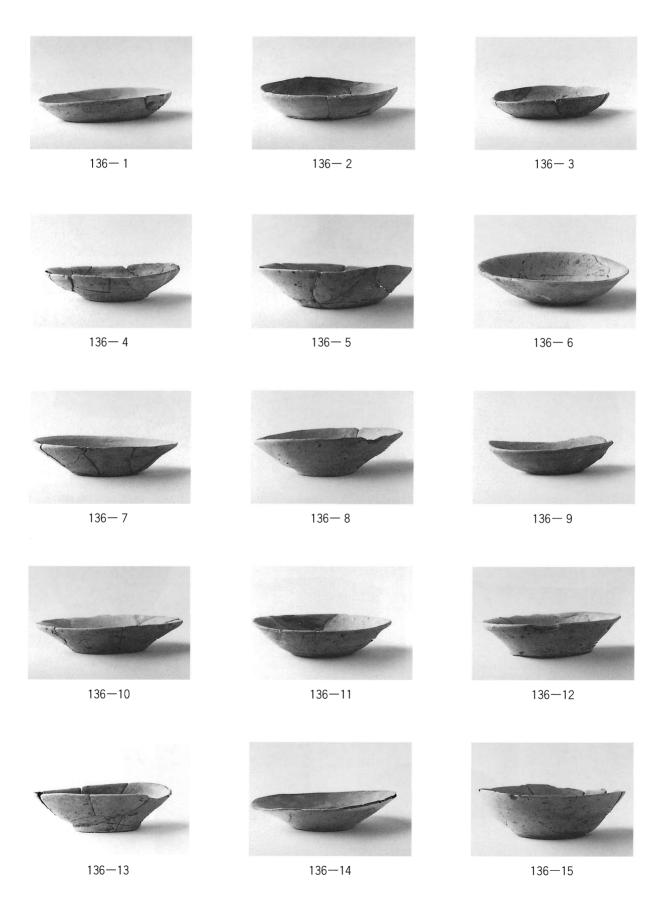




## 平成8年度前期



## 平成8年度後期



# 平成8年度後期・9年度



136-16



136-17



136-18



136-19



136-20



136-21

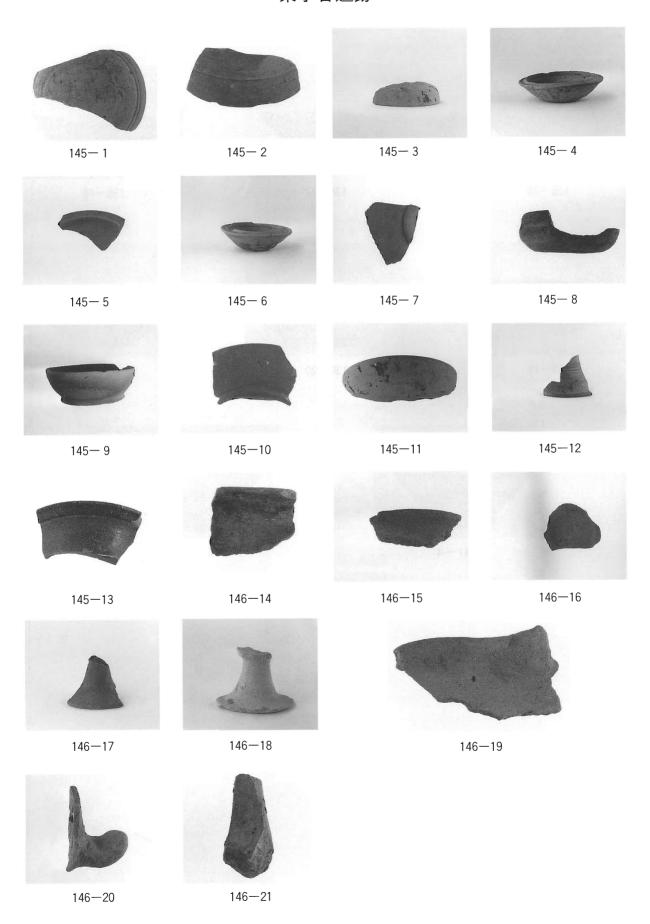


141 — 4



141 — 5

# 梨子谷遺跡



# 報告書抄録

ふりがな	まつえほくとうぶいせきはっくつちょうさほうこくしょ						
書名	松江北東部遺跡発掘調査報告書						
副書名	本庄地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書						
卷  次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編集者名	金山正樹、他各年度担当者						
編集機関	松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団						
所 在 地	〒690-0846 島根県松江市末次町86番地 TEL 0852 - 55 - 5294						
発行年月日	西暦1999年3月31日						
新収遺跡名	デ 在 地 コ ー ド 北 緯 東 経 調査期間 調査面積 m²   。,,,,						
	市町村 遺跡番号						
# つえほくとうぶ 松江北東部 いせき 遺跡	島根県松江市   32201   35°30′40″   133°07′20″   19861104~   16,114.3   上本庄町   上本庄町   19981001   19981001						
調査原因	本庄地区圃場整備事業に伴う事前調査						
所収遺跡名	種 別 主な時代 主 な 遺 構 主 な 遺 物 特 記 事 項						
松江北東部遺跡	集落跡 弥生時代 竪穴式住居跡 弥生土器、土師器、須恵器、土 掘立柱建物跡 小鍛冶跡 小鍛冶跡 出 (簪・刀子等)、土製品(土 錘・土馬)、石製品(石鏃・有 舌尖頭器・勾玉・管玉・砥石 等)、鏡、硯、貨幣、木製品(田 下駄等)、						

## 松江北東部遺跡発掘調査報告書

1999年3月

発 行 松江市教育委員会

印刷松栄印刷角

松江市西川津町667-1